

経済学専攻

開設科目	理論経済学研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済成長理論の基礎

授業の一般目標 経済成長のメカニズムを理解する。

授業の計画（全体） 新古典派成長モデルを中心に、経済成長理論の基礎を学ぶ。

成績評価方法（総合） 参加姿勢やレポートなどにより総合的に判断する。

開設科目	現代経済学研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions. One needs to know whether the benefits (revenues) of all policy consequences exceed the costs (expenditures). Cost-benefit analysis tries to consider all of the costs and benefits to society as a whole. The objective is to facilitate more efficient allocation of society's resources. Where markets work well, individual self-interest leads to an efficient allocation of resources. Consequently, programs of government intervention move the market away from a competitive equilibrium, creating distortions in the market as economic resources are reallocated. In perfectly competitive markets there are no externalities. Externalities are present in a market if the actions of either consumers or producers lead to costs or benefits that are not reflected in the price of the product in the market. Where markets fail, there is a rationale for government intervention. One must be able to demonstrate the superior efficiency of a particular intervention relative to the alternatives. For this purpose, we use cost-benefit analysis.

授業の一般目標 This course will be devoted to a discussion of the main conceptual issues involved in cost-benefit analysis.

授業の計画 (全体) There are the basic analytical steps involved. (1)Determining the appropriate size of a project or program (2)Discounting (3)Distributional issues (4)Risk analysis. Papers concerning these topics must be submitted.

開設科目	制度の経済学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 現代の制度論の基本的な文献を渉猟し、経済学における制度の扱い方についての概括的理解を得る。

授業の一般目標 制度論経済学の基本的な概念を理解する。制度論的思考法と新古典派的思考法の違いを識別する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：制度や慣習、行動類型など制度論の基本概念を操作できる。思考・判断の観点：制度論的思考法による問題設定ができる。

授業の計画（全体） 制度論に関する基本的文献を輪読する。

成績評価方法（総合） 輪読における理解度、議論への参加度で評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは授業内で指定する（相談して決める）。

開設科目	経済学史研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中尾訓生				

開設科目	経済学史研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中尾訓生				

開設科目	経済政策論A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 経済政策の基本問題である効率性と公正性のトレードオフを、ジョン・ロールズの『正義論』によって原理的に考える。この問題は高度経済成長とそれに続く低成長期、また長期不況期を経て、日本がこれからどのような社会を目指していくのかを考えるための一つの原理的なヒントとなるであろう。『正義論』の第一部理論の第一章から第三章を各節ごとに講義する。第一章 公正としての正義 第二章 正義の諸原理 第三章 原初状態 ジョン・ロールズ『正義論』紀伊国屋書店、1979年。(現在改訳中であり、入手は難しいであろう。プリントを配布する予定。) / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性

授業の一般目標 正義論の基本内容を理解する。

教科書・参考書 教科書：講義の最初に指示する。

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済政策論B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 経済政策の基本問題である効率性と公正性のトレードオフを、ジョン・ロールズの『正義論』によって原理的に考える。この問題は高度経済成長とそれに続く低成長期、また長期不況期を経て、日本がこれからどのような社会を目指していくのかを考えるための一つの原理的なヒントとなるであろう。『正義論』の第二部制度論の第四章から第六章を各節ごとに講義する。第四章 平等な自由 第五章 分配の正義 第六章 義務と責務 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性

授業の一般目標 『正義論』の基本内容を理解する。

教科書・参考書 参考書：講義の最初に指示する。

連絡先・オフィスアワー ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代日本の労使関係	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本的労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。ちなみに、昨年前期は、高橋伸夫(2004)『虚妄の成果主義』日経 BP .を中心に、他に日本的雇用慣行の基本文献を数本やり、さらに各自の発表を自由課題で行なった。 / 検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

授業の一般目標 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解すること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)か(2)のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらおう。なお、下記の参考書(5)はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。それが終わったら、テキスト(3)の1990年以降の「第1概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第1概説」を通読して知識を養ってもらおう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。

成績評価方法(総合) レジュメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。

教科書・参考書 教科書：労働運動白書、労働省、大蔵省印刷局；日本の労働組合100年、法政大学大原社会問題研究所【編】、旬報社、1999年；労働組合を創る、労働問題実践シリーズ編集委員会編、大月書店、1990年；・テキスト候補(1)神代和欣・連合総合生活開発研究所編(1995)『戦後50年産業・雇用・労働史』日本労働研究機構。(2)兵藤ツトム(1997)『労働の戦後史』東京大学出版会。(3)(厚生)労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(4)法政大学大原社会問題研究所編(1999)『日本の労働組合100年』旬報社。(5)労働問題実践シリーズ編集委員会編5『労働組合を創る』大月書店。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん！

連絡先・オフィスアワー tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国 日本 途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。昨年後期は、日本・中国・カナダの労使関係に関する基本文献を数本輪読してから、今野浩一郎(1998)『勝ち抜く賃金改革』日本経済新聞社・を輪読し、さらに各自の発表を自由課題で行なった。 / 検索キーワード 政労使関係

授業の一般目標 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジユメを作成して報告してもらおう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るとい方向になるかもしれない。

成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レジユメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。成績評価方法(観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。定期試験(中間・期末試験) 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。10点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。50点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。10点 受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式(レポート、レジユメ、プレゼン)を採る。20点 出席 毎回、出席を確認する。10点 合計 100点

教科書・参考書 教科書: 先進諸国の労使関係: 国際比較: 21世紀に向けての課題と展望, 桑原靖夫, グレグ・バンバー, ラッセル・ランズベリー編, 日本労働研究機構, 1990年; ・テキスト候補(1) 桑原靖夫, グレグ・バンバー, ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係 国際比較: 21世紀に向けての課題と展望』日本労働研究機構。(2)「特集 開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌 1999年8月号, No.469. ・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッタカー他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較 新しい政治経済モデルの探索』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、 国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。 / 参考書: 適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん!

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域社会福祉論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 「地域」や「福祉」をキーワードにして、私たちの生活社会のあり方について考える。現在の福祉政策がどのような理念のもとに進められているのか、また、どのような問題点が指摘されているのか、などについて、最近の雑誌論文や最新の文献を読み合わせることによって、議論を進めていく。テーマとなる主な福祉政策は、高齢者福祉政策、医療政策、労働政策、家族政策などである。また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。/ 検索キーワード 地域、福祉、社会学、コミュニティ、ジェンダー

授業の一般目標 生活に福祉政策がどのように関わっているのかを当事者意識を持って考察することができる。福祉政策が社会に与える影響について分析することができる。

授業の計画(全体) 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。

成績評価方法(総合) 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。

教科書・参考書 教科書：読み合わせるテキストとして、“Social Politics”および“Journal of Social Policy”などの雑誌に掲載されている英語論文を考えている。

メッセージ 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。

連絡先・オフィスアワー E-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	地域社会福祉論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 福祉政策のあり方は国によって大きく異なる。福祉国家比較をおこなうことによって、日本の福祉政策の現状と理念について理解を深める。特に、スカンジナビアモデルと称される北欧諸国の福祉政策を考察することによって、個人、家族、国家との関係がどのようなもので、また、賃金労働とケアとの関係がどのように考えられているのかなどについて、議論を進める。/ 検索キーワード 福祉国家、福祉政策、社会学、ケア、家族、ジェンダー

授業の一般目標 比較福祉国家論の方法を修得する。政策と政治、個人と社会との関係について多角的に考察できる。

授業の計画（全体） 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。

成績評価方法（総合） 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。

教科書・参考書 教科書：読み合わせるテキストとして、“Social Politics”および“Journal of Social Policy”などの雑誌に掲載されている英語論文を考えている。

メッセージ 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。

連絡先・オフィスアワー 来室の際はメールにて予定をお知らせ下さい。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nabeyama/>

開設科目	計量経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 経済理論を現実の経済および社会データを用いて、検証できるために必要な基本となる分析ツールを取り扱う授業である。特に、重回帰モデルの理論とその応用方法について解説し、パソコンを用いた実習形式の授業とする。目的とする分析テーマに合わせて、統計データを収集し、実際に推計を行い、推定結果についての評価までをレポートとして作成する。

授業の一般目標 重回帰分析の基礎的な理論を理解する。経済理論を現実のデータを用いて検証する。計量経済学的手法を用いた研究を分析結果をみて、理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。データ制約が存在する場合、どのような対処方法で分析可能であるかを理解している。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：実習講義として、自らが学ぶことが極めて重要であることから、積極的に粘り強く課題に取り組むことができる。技能・表現の観点：レポートを効果的に作成できる。短時間にPCの扱い方をマスターしながら、統計データを正しく処理することができる。内容、形式ともに十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) データを用いた統計的手法をいくつか解説した後に、重回帰分析の様々な事例を課題に出しながら講義を進める。重回帰モデルについては係数についての解釈、さらに誤差の分散が等しくないとき、系列相関がある時の問題を扱う。次に多重共線性の問題、ダミー変数の利用方法、同時方程式モデルと計量経済学での識別問題への導入を行う。時間が許せば、分布ラグモデルや期待のモデルについても取り扱う予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 経済データにおける様々な統計的利用
- 第 2 回 項目 レポート作成上の分析事例の解説
- 第 3 回 項目 最小 2 乗法
- 第 4 回 項目 重回帰モデル(1) 内容 統計量の利用 残差プロット、決定係数(自由度修正済み) 回帰係数の解釈
- 第 5 回 項目 重回帰モデル(2) 内容 安定性の検定、
- 第 6 回 項目 分散不均一性 内容 分散不均一性の検出 分散不均一性の影響 問題解決方法 1
- 第 7 回 項目 分散不均一性 内容 問題解決方法 2
- 第 8 回 項目 系列相関 内容 DW 検定、自己相関のある誤差項での推定方法
- 第 9 回 項目 系列相関 内容 AR(1) の誤差が OLS 推定量に与える影響、ラグつき変数を含むモデルのケース、その他の検定と対処方法
- 第 10 回 項目 多重共線性 内容 尺度、解決方法
- 第 11 回 項目 ダミー変数 内容 活用方法
- 第 12 回 項目 同時方程式モデル 内容 識別問題、識別の必要十分条件、推定法(1)
- 第 13 回 項目 同時方程式モデル 内容 推定法(2)
- 第 14 回 項目 期待のモデル 内容 期待のナীবモデル、対応型モデル、合理的期待モデル
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 講義中に何回か出す課題のレポート(評価比率 30%)と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート(評価比率 70%)によって評価する。

教科書・参考書 教科書：入手する必要があるテキストを第 1 回授業の時に正式に指示をする。 / 参考書：Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPs, 2002 年；入手が望ましい参考文献は講義中に別途紹介する。

メッセージ レポート作成に必要なマイクロソフト word や Excel の知識を持っていること(同様な機能を持つアプリケーションも可)を前提とします。また、計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示し、指導します。 様々な課題に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	計量経済学研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 計量経済分析は様々な分析目的に対応する、数多くの手法を備えている。この講義では、受講生の専攻分野でよく用いられる手法をとりあげ、その理論と応用方法を解説する。さらに類似のケースを実際に受講生に分析してもらい、実践的な計量経済分析を行えることを目指すものである。また、政策シミュレーション等の活用として簡単な計量経済モデルや産業関連モデルについても受講生の希望にそって、講義で取り扱う。

授業の一般目標 計量経済分析の手法および理論を習得し、実際のデータを活用して、分析を行うことができる。さらに、ここで学んだ内容を用いて、受講生の研究テーマにそくした分析に応用できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な計量経済学の理論を理解している。研究テーマに適する分析ツールを理解し、独自の研究に発展できるまでの知識を得ること。 **思考・判断の観点：** 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 **態度の観点：** 実習講義として、自らが学ぶことが極めて重要であることから、積極的に粘り強く課題に取り組むことができる。 **技能・表現の観点：** レポートを効果的に作成できる。短時間に PC の扱い方をマスターしながら、統計データを正しく処理することができる。内容、形式ともに十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画（全体） 次の 1～5 の中から受講生の希望により選択する。分析 A 1. 質的変数モデル（アンケート調査分析を含む） 2. パネル・データの分析 3. 単位根・共和分分析 分析 B 4. 計量経済モデル（コンパクトのモデルを想定している） 5. 産業関連モデル

成績評価方法（総合） 講義中に何回か出す課題のレポート（評価比率 30 %）と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート（評価比率 70 %）によって評価する。

教科書・参考書 教科書：入手が必要なテキストは受講生に別途紹介する。 / 参考書：入手が望ましい参考文献は受講生に別途紹介する。

メッセージ レポート作成に必要なマイクロソフト word や Excel の知識を持っていること（同様な機能を持つアプリケーションも可）を前提とします。また、計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示し、指導します。様々な課題に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 本講義では、金井雄一著『ポンドの苦闘—金本位制とは何だったのか』を輪読します。本書は、丁寧な歴史的事実分析を基に、従来考えられてきた金本位制が幻想だったことを明らかにした良書です。また、通俗的な金本位制理解(貨幣供給・外生説)の延長線上にあるマネタリズム・貨幣数量説が誤りであると喝破する、異色の野心作でもあります。本講義は、歴史的事実分析を通じて、「通説」やわれわれが抱く「常識」というものを、根本的に考え直すことを狙いとします。/ 検索キーワード 金本位制・ポンド・貨幣論と信用論

授業の計画(全体) 授業は、ゼミスタイルで行います。人数によっては毎回報告してもらうことになるかもしれません。単位取得にいたるには、一定程度の日本語能力が必要となります。

教科書・参考書 教科書：ポンドの苦闘, 金井雄一, 名古屋大学出版会, 2004 年

メッセージ 受講希望者は、必ず事前に面談にきてください(堅苦しいものではないのでお気軽にどうぞ)

連絡先・オフィスアワー 研究室に電気がついているときは、いつでもどうぞ(A208)

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：産業革命期の日本経済 本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産業革命は、欧米諸国のそれと比べてどのような特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたどって展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、といった点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

授業の一般目標 ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。

授業の計画(全体) 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も行う。

成績評価方法(総合) 課題の報告(45%) およびレポート(30%)による。この他、授業への取り組み(15%)、出席(10%)。

教科書・参考書 教科書：『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年 / 参考書：この他の参考書は適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・この授業は後期に開講する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本経済史研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：日本経済近代化と企業家の役割 明治・大正・昭和にかけての近代日本経済史について、「企業家 (entrepreneur)」の活動およびその役割に焦点を絞って取り扱う。19世紀半ば、黒船の来航による西洋文明の衝撃によって近代国家への道を歩み始めた日本が、西洋の先進技術を貪欲に吸収し、種々の産業を興し、工業化を推進し、ついには産業革命を達成するなど、驚異的経済発展を遂げた事実は広く知られている。その発展の要因には様々なものが考えられるが、近年特に注目されているのが「企業家」の果たした役割である。「企業家」活動が経済発展に与える役割の大きさは、シュンペーターによって理論的に指摘されて以来、経済史学・経営史学に多大な影響を与え、多くの研究蓄積をもたらしている。本授業では、こうした研究成果を踏まえつつ、日本の「企業家」群像の諸活動を通じて、近代日本の経済発展について多面的に考察していきたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、経営史、企業家

授業の一般目標 ・近代日本の経済史について理解を深める。 ・「企業家」の諸活動が日本の産業革命、近代化に及ぼした影響を多面的に考察する。 ・修士論文に向けた知識や手法の習得を目指す。

授業の計画 (全体) 当面は下記のテキスト『企業家たちの挑戦』を輪読する。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も適宜行う。

成績評価方法 (総合) 課題の報告 (45 %) およびレポート (30 %) による。この他、授業への取り組み (15 %)、出席 (10 %)。

教科書・参考書 教科書：企業家たちの挑戦, 宮本又郎, 中央公論新社, 1999年; テキストは各自購入すること。 / 参考書：近代日本経営史の基礎知識 (増補版), 中川敬一郎他編, 有斐閣, 1997年; この他の参考書は適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・この授業は前期に開講する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政府と政策	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 政府が財政手段を用いて行う政策の意義と目的、その効果を論ずる。

授業の一般目標 財政手段の理論を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最重要。 思考・判断の観点：重要。 関心・意欲の観点：普通。 態度の観点：普通。 技能・表現の観点：普通。

授業の計画（全体） 政府支出、租税、公債という財政手段が市場における資源配分の効率化、所得分配の公平化、マクロ経済の安定化にどのように役立つかをそれぞれ論じてゆく。

成績評価方法（総合） 毎回の理解の状況を確認し、総合評価する。

開設科目	課税の帰着理論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 この科目では、英文テキスト、英文学術雑誌を利用して、基本的な公共経済学、とりわけ課税に関する経済効果を、理論モデルから学ぶ。

授業の一般目標 大学院レベルのマクロ・ミクロ経済学モデルに習熟すること。モデルビルディングの技法を学ぶこと。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済理論に対する十分な理解と援用方法をみにつけること。

授業の計画（全体） 原則として受講生によるレポートによって進める。教官が数式の導出、英文訳を逐一説明することはしないので注意すること。その2点は受講生によってクリアされる最低限のラインである。またモデルの理解のためにも、演習問題を毎回解いてもらい、それについて議論し、私からも説明を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 レポート
- 第 3 回 項目 レポート
- 第 4 回 項目 レポート
- 第 5 回 項目 レポート
- 第 6 回 項目 モデルビルディングの技法
- 第 7 回 項目 レポート
- 第 8 回 項目 レポート
- 第 9 回 項目 レポート
- 第 10 回 項目 レポート
- 第 11 回 項目 モデルビルディングの技法
- 第 12 回 項目 レポート
- 第 13 回 項目 レポート
- 第 14 回 項目 レポート
- 第 15 回 項目 レポート

成績評価方法（総合） 期末試験、毎回のレポート・演習問題の出来具合によって評価。各50%ずつの割合で評価。

教科書・参考書 教科書： Lectures on Macroeconomics, Blanchard and Fischer, MIT Press ; Advanced Macroeconomics, Romer, McGraw Hill

メッセージ 単なる単位取得目的の履修では、講義参加を辛く感じるだけです。受講生のレポートを主体とした講義であるためです。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課税の帰着理論研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 マクロ・ミクロ経済学を援用しつつ、課税が経済に与える効果を分析し、理解すること。

授業の一般目標 大学院レベルのマクロ・ミクロ経済学理論を確実に理解すること。 数学モデルを確実に理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：大学院レベルのマクロ・ミクロ経済学理論を確実に理解すること。 数学モデルを確実に理解すること。

授業の計画（全体） 原則として受講生によるレポートを主体にした講義展開。またモデルを確実に理解するためにも、受講生に演習問題を必ず解いてもらい、議論をし、私からも説明を加える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 レポート
- 第 2 回 項目 レポート
- 第 3 回 項目 レポート
- 第 4 回 項目 レポート
- 第 5 回 項目 モデルビルディングの技法
- 第 6 回 項目 レポート
- 第 7 回 項目 レポート
- 第 8 回 項目 レポート
- 第 9 回 項目 レポート
- 第 10 回 項目 モデルビルディングの技法
- 第 11 回 項目 レポート
- 第 12 回 項目 レポート
- 第 13 回 項目 レポート
- 第 14 回 項目 レポート
- 第 15 回 項目 モデルビルディングの技法

成績評価方法（総合） 期末試験と毎回のレポート・演習問題の出来具合によって評価する。評価割合は各 50%。

教科書・参考書 教科書：後期の教科書は、前期ので利用したものか、英文論文を利用予定。英文論文を利用する場合、おって論文タイトルを指示する。

メッセージ この講義は前期・後期連続受講を原則として義務付けています。単なる単位取得、単位うめ合わせの受講では、かなりきついですので、注意してください。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融経済と貨幣理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。 / 検索キーワード 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、金融工学(ファイナンス)理論や情報の経済学など、よりアドバンスド(発展的)な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。/検索キーワード 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 2
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT(価格裁定理論)
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	経済応用数学 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 受講生の数学的予備知識に配慮しながら，ミクロ経済学の数学的理解に必要な不可欠な多変数関数の微分や行列式や凹関数の最大値問題などについて概説する。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。尚，他に希望があれば相談にのる。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 偏導関数の計算ができる。 2. 行列式の計算ができる。 3. 無差別曲線，限界代替率などの概念を理解できている。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 1
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 2
- 第 3 回 項目 1 変数関数の最大・最小問題
- 第 4 回 項目 偏微分 その 1
- 第 5 回 項目 偏微分 その 2
- 第 6 回 項目 高階偏微分
- 第 7 回 項目 全微分
- 第 8 回 項目 接平面
- 第 9 回 項目 合成関数の微分 その 1
- 第 10 回 項目 合成関数の微分 その 2
- 第 11 回 項目 行列式の計算 その 1
- 第 12 回 項目 行列式の計算 その 2
- 第 13 回 項目 行列式の計算 その 3
- 第 14 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 1
- 第 15 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 2

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済応用数学 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 経済応用数学 A に引き続き，ミクロ経済学の理解に必要な数学の概説を行う。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。

授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 条件付き極値問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 2. 効用最大化問題・支出最小化問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 3. スルツキー方程式が扱える。 4. 所得項・代替項の意味を理解し，その基本的な性質が扱える。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 条件付極値問題 その 1
- 第 2 回 項目 条件付極値問題 その 2
- 第 3 回 項目 凸集合
- 第 4 回 項目 凸関数，凹関数 その 1
- 第 5 回 項目 凸関数，凹関数 その 2
- 第 6 回 項目 準凹関数
- 第 7 回 項目 効用最大化問題 その 1
- 第 8 回 項目 効用最大化問題 その 2
- 第 9 回 項目 支出最小化問題 その 1
- 第 10 回 項目 支出最小化問題 その 2
- 第 11 回 項目 双対性
- 第 12 回 項目 スルツキー方程式 その 1
- 第 13 回 項目 スルツキー方程式 その 2
- 第 14 回 項目 代替項の性質
- 第 15 回 項目 ギッフェン財，代替財，補完財

成績評価方法（総合） 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	国際経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 テキストを輪読しつつ貿易理論の形成史と現実の世界経済の諸力との関連を理解する。

授業の一般目標 抽象的に理解されがちな貿易理論を，歴史，政治，通貨等の多面的な視角から捉え直す。

授業の計画（全体） テキストを輪読しつつ関連文献を紹介してゆきます。

成績評価方法（総合） 報告・討論等，日常的な活動により評価します。授業への参加度 50%，受講者の発表 50%。

教科書・参考書 教科書：世界経済論，本山美彦編著，ミネルヴァ書房，2006 年

メッセージ 大学院レベルの経済理論の知識を要求します。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	アジア経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 アジアとくに東アジアでの、開発独裁という特質と、市場化という世界的潮流という二つの対極軸を重ね合わせる努力のもとでの経済発展、そしてその結果としての新たな矛盾の発生と解消について、院生の東アジア経済の関心領域において、院生とともに研究していく。

授業の一般目標 単なる諸論文の解釈でなく、それをもとに新たな論文・レポートを書き上げるスキルと知識、そしてその応用を身につける。ものを書くにも一定のスキルと知識、そしてその応用が不可欠であるということに気づくことを目標とする。

授業の計画(全体) アジア経済研究の基本的姿勢や枠組みを教えた後、アジア経済に関心のあるテーマを受講生自らが定め、それを報告し、ディスカッションしていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アジアの定義
- 第 2 回 項目 東アジアの経済発展-データ分析
- 第 3 回 項目 東アジア経済発展のメカニズム
- 第 4 回 項目 東アジアの工業化とポスト工業化など
- 第 5 回 項目 院生研究テーマ報告・検討
- 第 6 回 項目
- 第 7 回 項目
- 第 8 回 項目
- 第 9 回 項目
- 第 10 回 項目
- 第 11 回 項目 院生研究テーマ・レポート指導
- 第 12 回 項目
- 第 13 回 項目
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) ディスカッションと何某かのレポート。

教科書・参考書 参考書: 東アジアへの視点 2004 春季特別号第 15 巻 2 号 特別報告 東アジア経済の趨勢と展望, 財団法人国際東アジア研究センター, 財団法人国際東アジア研究センター, 2004 年

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。 / 検索キーワード 直接投資

授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

授業の計画(全体) World Investment Report 2005、を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論(以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 授業中のレポートと、討論内容で評価する。

教科書・参考書 教科書: World Investment Report 2003, UNCTAD

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。 / 検索キーワード 国際産業組織

授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

授業の計画（全体） 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論（以下同じ）

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） レポートと討論内容で評価する。

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

授業の計画(全体) 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 50% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 50% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

メッセージ 無断欠席しないこと。

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
 / 検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1 . テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。
 技能・表現の観点： 1 . 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

授業の計画 (全体) 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告を中心に討論する。

成績評価方法 (総合) 1 . 報告 40 % , レポート 40 % , 討論 20 % 。 4 回以上欠席した場合単位は与えない。

教科書・参考書 教科書：テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
 電話:083-933-5559

開設科目	東アジア経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 この講義では、現在、東アジアの焦点となっている自由貿易協定・経済連携協定の動きを、この地域の経済構造と政治力学の観点から理解することを目的とする。

授業の一般目標 現在の東アジアの政治経済力学を理解する視点を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：東アジアの経済構造、国際政治構造について理解する。 思考・判断の観点：日本と東アジアの今後の関係を展望するための視点を養う。

授業の計画（全体） 東アジアの経済構造に関する理解からはじめ、それが日本を中心とした自由貿易協定戦略にどのように反映されているのかを検討する。次に、中国やASEAN、そして米国などの動向に注目した分析を行う。これらの課題をもとに参加者の討論を行いたい。

成績評価方法（総合） 出席および討論への参加によって評価するが、受講者の理解度を勘案してレポートを課すことも考えている。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて指示、配布する。 / 参考書：必要に応じて指示する。

開設科目	東アジア社会経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化を中心に分析し、検討する。 / 検索キーワード 社会経済の構造変化、消費生活の変貌、大衆消費社会、研究方法、

授業の一般目標 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化の研究分析を通して、経済、経営理論、研究方法を習得してもらう、

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 東アジア社会経済の構造変化
- 第 2 回 項目 外資、技術、経営システムの導入
- 第 3 回 項目 市場経済の発展と消費水準の上昇
- 第 4 回 項目 経済政策と消費社会の変化
- 第 5 回 項目 生活水準の向上と階層間格差の拡大
- 第 6 回 項目 消費市場の拡大と商業環境の変化
- 第 7 回 項目 情報環境の発達と消費者行動意識
- 第 8 回 項目 大衆消費社会の形成
- 第 9 回 項目 都市・農村間の格差拡大
- 第 10 回 項目 大量消費と東アジアの環境
- 第 11 回 項目 社会主義市場経済について
- 第 12 回 項目 研究方法の探索
- 第 13 回 項目 社会調査方法
- 第 14 回 項目 アンケートの設計
- 第 15 回 項目 統計的分析手法

教科書・参考書 教科書：第一回目の講義の際に指示する、 / 参考書：第一回目の講義の際に指示する、

メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	アジア環境政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 18 世紀の産業革命以来，ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって，工業生産性の向上を可能にし，驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を，財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ，人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。それゆえ，発展途上国にとって，工業化は経済発展を加速させ，生活水準を向上させるために，最も有効な手段の一つだと考えられている。しかしながら，多くの発展途上国では，工業化過程の離陸段階では，環境保全のための政策的努力はしばしば無視され，キャッチアップを優先する産業政策は，汚染集約型化学工業を優先して推進されるために，社会資本では産業基盤を優先して，生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は，様々な公害・環境問題を引き起こした。一方，地球規模の環境問題の拡大に伴って，国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に，地球温暖化問題に関する国際的取組みは，科学的知見の集積をふまえて，1980 年代に国際政治問題化して以来，集約的に行なわれてきたが，発展途上国の義務に関しては，なかなか合意が得られない。しかしながら，今後，発展途上国，特にアジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても，途上国も「持続的な開発を損なわない範囲で，地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。

授業の一般目標 本授業は「気候変動」に関する国際環境保全の政策を中心に論ずることにしたい。そのねらいは，受講者における「国際公民」の意識と義務を認識させると共に，国際環境保全の重要性をアピールする。

授業の計画(全体) (1) 圧縮型工業化と爆発的都市化 (2) 加速するモータリゼーション (3) 広がる環境汚染と健康被害 (4) 問われる生物多様性の保全と利用 (5) 地球規模の環境問題と地球サミット (6) 気候変動枠組条約 (7) 国際環境保全の課題と展望

成績評価方法(総合) 成績評価は基本的に，出席(40%)，報告(60%)で行う。ただし，合格基準点に達していない受講者に対して，救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

教科書・参考書 教科書：アジア環境白書，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，2000 年；アジア環境白書，日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」，東洋経済新報社，2000 年

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 A302 室 電話：083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際金融研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧口治				

授業の概要 国際通貨制度の歴史的変遷

授業の一般目標 国際通貨制度を3つのポイント(国際流動性供給、信認の確保、国際収支不均衡是正)から評価し、現行の国際通貨制度の抱える問題点を分析し、望ましい国際通貨制度のを探求する。

授業の計画(全体) 受講者数によって異なるが、ゼミ形式を基本とする。授業の大きな項目については概説を教師側が行い、その後教科書や配布資料等に沿って輪番で受講者が報告する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 I . はじめに I - 1 . 国際通貨制度の概要 内容 現行の IMF を中心とした国際通貨体制の概要
- 第 2 回 項目 I - 2 . 国際通貨制度の歴史的変遷 内容 第二次世界大戦をはさんだ国際通貨制度の歴史の概略
- 第 3 回 項目 II . 第二次世界大戦前の国際通貨制度について II - 1 . 金本位制度について 内容 複数本位制、グレシャムの法則について
- 第 4 回 項目 同上 内容 金本位制度成立前後の諸論争
- 第 5 回 項目 II - 2 . 戦間期の国際通貨制度 内容 再建金本位制、金本位制の崩壊、管理フロート制
- 第 6 回 項目 III . 第二次世界大戦後の IMF 体制下の国際通貨制度 III - 1 . 固定為替相場制時代の IMF 制度 内容 当初の IMF 制度の仕組み
- 第 7 回 項目 同上 内容 制度外の補強対策 スミソニアン協定
- 第 8 回 項目 III - 2 . 変動為替相場制時代の IMF 制度 内容 1970 年代の変動為替相場制
- 第 9 回 内容 1980 年代の変動為替相場制 1990 年代以降の変動為替相場制
- 第 10 回 項目 III - 3 . SDR 制度 内容 固定相場制から変動相場制への移行と SDR 制度の変容
- 第 11 回 項目 III - 4 . 欧州における通貨統合 内容 欧州通貨制度 (EMS) 成立 (1 9 7 9 年 3 月) 以前の通貨統合への動き
- 第 12 回 項目 同上 内容 EMS 時代
- 第 13 回 項目 同上 内容 経済・通貨同盟 (EMU) 成立 (1 9 9 9 年 1 月) 以降
- 第 14 回 項目 III - 5 . アジアにおける地域金融協力と通貨統合の動きについて 内容 アジア通貨基金 (AMF) 構想
- 第 15 回 項目 同上 内容 同上

成績評価方法 (総合) 出席 20 %、報告 20 %、小テスト 20 %、レポート 40 %

教科書・参考書 教科書: グローバル資本と国際通貨システム, B. アイケングリーン, ミネルヴァ書房, 1999 年; 講義内容にかかわり部分的に用いる他の教科書や論文については、開講後コピーを配布します。 / 参考書: 国際政治経済システム III、, 鴨・伊藤・石黒編, 有斐閣, 1999 年; 国際政治経済システム III、, 鴨・伊藤・石黒編, 有斐閣, 1999 年; 国際通貨体制成立史上・下, R.N. ガードナー, 東洋経済新報社; 21 世紀の国際通貨システム, ブレトンウッズ委員会, 金融財政事情研究会, 1996 年; 21 世紀の国際通貨制度, B. アイケングリーン, 岩波書店, 1997 年; 講義内容にかかわり部分的に用いる他の参考書・論文・資料については、開講後コピーを配布します。

メッセージ 応用経済学であることを理解して、ミクロ経済学やマクロ経済学等の基礎理論をマスターしていない受講希望者は、独学や学部関連授業の履修等努力すること。将来ポディブローのように効いてきます。

連絡先・オフィスアワー E-mail: osamu@yamaguchi-u.ac.jp 電話: 5 5 4 1 または 5 5 0 1 オフィス・アワー開講後設定 学内連絡場所: A403 研究室または学部長室 (A 棟 2 F)

開設科目	国際金融研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧口治				

授業の概要 1973年に世界の為替相場が変動相場制に移行し、その後の経済の国際化の進展と、資本取引の自由化に伴う国際間の資本移動の激化は1997年のアジアを舞台にした国際金融危機を惹起した。1999年1月1日からEUの統一通貨ユーロが誕生して、ドルに次ぐ国際通貨としてその帰趨が注目されている。国際金融現象は確実にその複雑さを増してきている。本講義ではこのような現実の動きを正確に理解するために、国際金融理論を学習する。

授業の一般目標 前期の国際金融研究 A においては国際通貨制度の歴史的変遷と各時代における国際金融の制度的枠組みを学習した。本講義ではこの国際金融の制度および歴史の学習を前提として、国際化した時代の各国経済の相互依存関係を正しく理解するために国際マクロ経済理論を学び、現行の変動相場制下の経済問題に対応できるようにするために為替に関する諸理論を学習する。

授業の計画(全体) 受講者数によって異なるが、ゼミ形式を基本とする。テキストや配布資料を用いながら以下の項目について輪番で受講者が報告し、いくつかの項目については教師がわが講義する。講義は概略次の項目について行う。国際収支概念、国際収支表の基本概念、国民所得勘定と国際収支、開放経済における所得決定経常収支の短期理論、経常収支の中・長期理論、為替取引と為替相場、為替相場決定理論、為替政策

成績評価方法(総合) 出席 20%、報告 30%、小テスト 20%、レポート(宿題を含む) 30%

教科書・参考書 教科書：新版 国際金融論、尾上修悟 編、ミネルヴァ書房、2003年；現代国際金融論(新版)、上川・藤田・向編、有斐閣ブックス、2003年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の教科書や論文については、開講後コピーを配布します。/ 参考書：入門国際金融(第2版)、高木信二、日本評論社、1999年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の参考書や論文・資料については、開講後コピーを配布します。

メッセージ マクロ経済学と簡単な微分については理解しておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:osamu@yamaguchi-u.ac.jp 電話:5541 または 5501 オフィス・アワー：開講後設定 学内連絡場所：A403 研究室または学部長室(A棟 2F)

開設科目	グローバル企業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

授業の概要 グローバル企業としてトヨタ自動車を取りあげる。ジェフリー・k・ライカー『ザ・トヨタウェイ』を材料にグローバル企業とは何なのかを検討する。

授業の一般目標 トヨタ自動車は最も革新的な企業でありかつ日本的経営の要素を色濃く残した企業である。トヨタ自動車の研究を通して、グローバル企業とは何かを理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自動車産業への理解 経営一般への理解 国際経営への理解 レポートで確認する。 思考・判断の観点：上記理解がどれほど応用性をもっているか レポートで確認する。

授業の計画(全体) 1 ジェフリー・k・ライカー『ザ・トヨタウェイ』の理解 2 トヨタに関する文献たとえば藤本隆宏『生産システムの進化論』の理解

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 文献紹介
- 第 2 回 項目 ザ・トヨタウェイ(1) 内容 第1章 第2章
- 第 3 回 項目 ザ・トヨタウェイ(2) 内容 第3章 第4章 第5章 第2章
- 第 4 回 項目 ザ・トヨタウェイ(3) 内容 第6章 第7章
- 第 5 回 項目 ザ・トヨタウェイ(4) 内容 第8章 第9章
- 第 6 回 項目 ザ・トヨタウェイ(5) 内容 第10章 第11章
- 第 7 回 項目 ザ・トヨタウェイ(6) 内容 第12章 第13章
- 第 8 回 項目 ザ・トヨタウェイ(7) 内容 第14章 第15章 第16章
- 第 9 回 項目 ザ・トヨタウェイ(8) 内容 第17章 第18章
- 第10回 項目 ザ・トヨタウェイ(9) 内容 第19章 第20章
- 第11回 項目 ザ・トヨタウェイ(10) 内容 第21章 第22章
- 第12回 項目 生産システムの進化論(1) 内容 第4章
- 第13回 項目 生産システムの進化論(2) 内容 第5章
- 第14回 項目 生産システムの進化論(3) 内容 第6章
- 第15回 項目 生産システムの進化論(4) 内容 第7章 講義まとめ

成績評価方法(総合) 毎回のレポート及び最終レポートで評価

教科書・参考書 教科書：『ザ・トヨタウェイ』上下、ジェフリー・k・ライカー、日系BP、2005年 / 参考書：生産システムの進化論、藤本隆宏、有斐閣、1997年

開設科目	海運論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義では経済学だけでなく、数学や統計学の基礎知識も必要とされます。

授業の一般目標 海運諸理論の理解を目指します。

授業の計画(全体) 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容(テキスト)の内容は、以下の通りです。
 ・Relevant aspects of analytical geometry
 ・Probability theory and distributions
 ・Basic economic relationships
 ・The demand and supply of sea transport
 ・Optimum speed of ships
 ・Ship's cost
 ・Freight futures
 ・The optimum size of ships
 ・Liner freight rates

成績評価方法(総合) 成績評価は、学期末のレポート(20,000字以上)によって行います。

教科書・参考書 教科書: Quantitative Methods in, J.J.Evans and P.B. Marlow, , 1990年; 受講者は各自で購入しておくこと。

メッセージ 毎時間、テキストを20ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	海運論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 海運論研究 A に続けて、数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義は海運論研究 A の単位を修得していることが受講の条件になります。

授業の一般目標 海運諸理論の習得を目指します。

授業の計画(全体) 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容(テキスト)の内容は、以下の通りです。 ・Linear programming and transportation ・Regression and correlation ・Decision theory ・The theory and practice of index numbers ・Currency, bunker and inflation differential factors ・Investment appraisal in shipping ・Replacement, obsolescence and modifications of ships ・Shipping and the balance of payments ・Calculations in shipping economics

成績評価方法(総合) 成績評価は、学期末のレポート(20,000字以上)によって行います。

メッセージ 毎時間、テキストを20ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	交通論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の計画(全体) 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容(テキスト)の内容は、以下の通りです。 Part A : The Traffic analysis process Part B : Basic Traffic Theory / Basic traffic flow theory

成績評価方法(総合) 成績評価は、学期末のレポート(20,000字以上)によって行います。

教科書・参考書 教科書: テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understanding Traffic Systems,1996 を使用します。受講者は各自で購入しておくこと。/ 参考書: 交通計量経済学(改訂版), 澤喜司郎著, 成山堂書店, 2000年; 参考書は、澤 喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成9年を使用します。受講者は各自で購入し、開講までにすべてを読んでおくこと。

メッセージ 毎時間、テキストを20ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	交通論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 交通論研究Aに続き、交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。なお、本講義の履修には、交通論研究Aを履修してあることが前提条件となります。

授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

授業の計画(全体) 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容(テキスト)の内容は、以下の通りです。Part C : Principles of survey planning and management / Road safety and accident analysis Part D : Statistical analysis / Statistical modelling

成績評価方法(総合) 成績評価は、学期末のレポート(20,000字以上)によって行います。

教科書・参考書 教科書: テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understanding Traffic Systems,1996を使用します。/ 参考書: 交通計量経済学(改訂版), 澤喜司郎著, 成山堂書店, 2000年; 参考書は、澤 喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成9年を使用します。

メッセージ 毎時間、テキストを20ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	中国近現代文化の研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 本科目は中国近代を社会、文化の側面から考察し、中国「近代」を捉えようとするものである。具体的には租界都市「上海」の成立と発展をつぶさにたどり、その社会、文化を検証しつつ、今日的な視点からその位置づけを再考する。 / 検索キーワード 中国「近代」の特質 租界都市 上海

授業の一般目標 中国「近代」社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

教科書・参考書 教科書：プリント配布 / 参考書：適宜、講義の中で紹介する

メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

開設科目	中国近現代文化の研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 本科目は中国現代を社会、文化の側面から考察し、中国「現代」を検証の中から再構築しようとするものである。具体的には上海の革命後の歩んだ道のりをたどり、その社会、文化の検証の中から、中国「現代」の本質を探る。 / 検索キーワード 改革開放と上海

授業の一般目標 中国現代社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

教科書・参考書 教科書：プリントを使用する / 参考書：適宜、講義の中で紹介する

メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

連絡先・オフィスアワー saito@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	時間論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 「時間」をテーマとした、哲学、現代思想の書物を熟読し、その内容について議論する授業である。

授業の一般目標 「時間」について、自分なりの問いを持つこと。

授業の計画(全体) 予習を課した部分を、講師が試訳をする。それを聴きながら、受講生は自らの訳を添削する。その後、講師とともに、内容について議論する。

成績評価方法(総合) 毎回の出席、授業態度、定期試験。それぞれ、30%ずつである。

教科書・参考書 教科書：毎回コピーを配布する。

メッセージ 難しいテキストを使用しますが、「時間」の周辺領域も含め、とにかく勉強に励んでください。

開設科目	時間論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 前期の時間論研究Aに続いて、さらに考察を深める。なお、Aを受講していなくてもBを受講することは可。 / 検索キーワード 「時間」

授業の一般目標 「時間」についての、最近注目を浴びている諸問題を考える。

授業の計画(全体) 毎回、前に配布した文献を読むことを前提にして、講師が試訳。(受講生は添削をしてください。)そのあと、講師とともに当該文献が厚かった問題について討論する。

成績評価方法(総合) 授業態度、出席、レポート、それぞれ約30パーセントずつです。

教科書・参考書 教科書：コピー配布。

メッセージ 予習のときには、文献と格闘してください。

開設科目	EU 経済研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊 嘉哲				

授業の概要 ヨーロッパ統合に関する英語文献を読む。その内容の報告した上で、それに対する自分の意見を述べてもらう。

授業の一般目標 ヨーロッパ統合に関する知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストを理解する。 思考・判断の観点：テキストの内容に対して自分の意見を述べる。

授業の計画（全体） ヨーロッパ統合に関する英語文献の輪読。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の発表で成績評価。欠席は欠格条件。

教科書・参考書 教科書：第 1 回授業で指示する。

メッセージ 積極的に自分の意見を述べてください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治理論研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた 1 つの政治的イデオロギーであり、 Kommunismus 亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確 固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現狀的地位が安泰なわけでは ない。 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリ ズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにし て、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

授業の計画 (全体) リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、 さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リベラリズム前 史 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 (3)
- 第 4 回 項目 リベラリズムと その哲学的基礎 (1) 内容 J・S・ミルと J・ロールズを
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 リベラリズムの さまざまな形態 (1) 内容 リバタリアニズ ム
- 第 8 回 項目 同上 (2) 内容 社民主義
- 第 9 回 項目 同上 (3) 内容 卓越主義
- 第 10 回 項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム (1) 内容 J・ロールズと R・ロー ティを 中心に
- 第 11 回 項目 同上 (2)
- 第 12 回 項目 同上 (3)
- 第 13 回 項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判 (1) 内容 共同体論・保守 主義
- 第 14 回 項目 同上 (2) 内容 共和主義
- 第 15 回 項目 同上 (3) 内容 フェミニズム・ 多文化主義

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断し て評 価する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とす る学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められる ので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	政治理論研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた 1 つの政治的イデオロギーであり、 Kommunismus 亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確 固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現狀的地位が安泰なわけでは ない。 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリ ズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにし て、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

授業の計画 (全体) リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、 さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リベラリズム前 史 (1)
- 第 2 回 項目 同上 (2)
- 第 3 回 項目 同上 (3)
- 第 4 回 項目 リベラリズムと その哲学的基礎 (1) 内容 J・S・ミルと J・ロールズを
- 第 5 回 項目 同上 (2)
- 第 6 回 項目 同上 (3)
- 第 7 回 項目 リベラリズムの さまざまな形態 (1) 内容 リバタリアニズ ム
- 第 8 回 項目 同上 (2) 内容 社民主義
- 第 9 回 項目 同上 (3) 内容 卓越主義
- 第 10 回 項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム (1) 内容 J・ロールズと R・ロー ティを 中心に
- 第 11 回 項目 同上 (2)
- 第 12 回 項目 同上 (3)
- 第 13 回 項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判 (1) 内容 共同体論・保守 主義
- 第 14 回 項目 同上 (2) 内容 共和主義
- 第 15 回 項目 同上 (3) 内容 フェミニズム・ 多文化主義

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断し て評 価する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とす る学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められる ので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	憲法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山 紘毅				

開設科目	憲法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	立山 紘毅				

開設科目	行政法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政救済法の法理について深める. 行政不服審査や行政訴訟について行うか、国家補償について行うか、実体法理や組織法について行うかについては、個別に協議して決める. / 検索キーワード 行政争訟 国家補償 行政不服申立て

授業の一般目標 救済法を通して行政法の法理やその直面する問題状況を探求する。

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出など総合的に評価して決める。

教科書・参考書 教科書：開講時に協議して決める。日本のものを使用する以外に、外国のものを使用することも考えられる。 / 参考書：必要におおじて指示する。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

開設科目	行政法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法をめぐる諸問題。総論的な原理論もしくは組織法に分野に関するもの、あるいは救済法の継続などが考えられる。いずれも受講生の意見も踏まえて具体化する。/ 検索キーワード 行政
法治主義 行政争訟

成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出などを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：開講時に協議して決める。日本語のものを使うか外国語のものを使うかについても協議して決める。

連絡先・オフィスアワー 内線5 5 8 8

開設科目	現代行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 日本の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“ 小さな政府 ”論と、他方における “ 地方分権 ” という、二つの潮流のただ中にある。この講義では、こうした状況を踏まえながら、具体的な問題を素材にして行政法を考えていく。

教科書・参考書 教科書：教科書や参考書等については、開講時に指示する。

メッセージ 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(研究室：経済学部 A 棟 408 室)

開設科目	応用行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 「現代行政法」での問題意識をさらに発展させ、より具体的な問題点を検討する。

教科書・参考書 教科書：受講生の意見を聞いてから決める。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(研究室：経済学部 A 棟 408 室)

開設科目	税法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	青柳 達朗				

授業の概要 企業が経済活動を行っていくさい、税は最終利益に最も影響するコストとして認識されているほか、あらゆる経営判断に少なからぬ影響を及ぼしています。このため、税法を理解している人に対するニーズは、大きいものがあります。ところが、日本のほとんどの大学では、税法の体系だった授業を行っていないため、税法を法律として学ぶ機会を持たないまま、大学を卒業する方が少なくありません。そのような人を対象に、法人にかかる税について、国税通則法、法人税法、消費税法のほかに、国際租税法などを全般的に勉強していきます。

授業の一般目標 国税通則法と法人税法を中心に、企業にかかる税に関する法律の基本的な理解を目標としていきます。

授業の計画（全体） 日本の租税法体系、法人税法、消費税法、国際租税法という順序で授業を進めます。限られた時間ですが、企業取引に関係して必須とされる税法に重点を置いて、授業を進める予定です。

成績評価方法（総合） 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：ケースブック租税法, 金子宏他, 弘文堂, 2004 年 / 参考書：学生の法律に関する理解度を参考に、追って指示します。インターネット上（財務省・国税庁）の資料を多用します。「小六法」など、基本的な税法の規定が省略されない形で収録されている法律集が必要です。

メッセージ 税法はわが国の行政法体系の中でも、特に大きな法体系です。受講に当たって会計学の知識が必要とされますが、それ以上に行政法の知識が必要とされます。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	青柳 達朗				

授業の概要 企業にかかる税のうち、特に法人税法と、それに関連した租税特別措置法などの法令の理解を深めるため、判例研究など演習を主体とした授業を進めていきます。

授業の一般目標 資産の評価、利益配当、企業再編成など、法人税法の中でも本質的テーマについて理解する。

授業の計画(全体) テーマごとに裁判例や国税不服審判所の裁決例を利用して、授業を進めていく。

成績評価方法(総合) 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：平成18年度版法人税法精説(平成18年7月出版予定)、武田隆二、森山書店、2006年

メッセージ 受講を希望される方は、「税法研究A」の受講をしてください。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 契約の正義 / 検索キーワード 契約

授業の一般目標 契約の正義を探求する。

授業の計画(全体) 1 契約の歴史 2 契約の哲学 3 契約の正義

開設科目	民法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 民法に関する判例・裁判例を検討する。

授業の一般目標 判例・裁判例を分析する能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：判例・裁判例を読んで理解できるようになること。 思考・判断の観点：判例・裁判例を分析・検討する能力を身につけること。 関心・意欲の観点：報告を担当する場合には関連する判例や文献を十分調べてくること。 態度の観点：報告があたっていない場合でも積極的に発言すること。

授業の計画（全体） 毎回報告者にひとつの判例を選んで報告してもらう。

成績評価方法（総合） 平常点による。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	雇用関係法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 本講義は、労働法の領域の中でも、集团的労使関係の法以外の部分（個別的労働関係の法および雇用保障関係の法）を対象とするものである。近年なされてきたこの領域についての法改正の問題を中心に、検討をし、今日の雇用関係法の問題状況を受講生に理解してもらおう。 / 検索キーワード 雇用、法。

メッセージ 毎回きちんと出席し、きちんとした報告と活発な議論を期待する。

開設科目	雇用関係法研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 労働法と社会保障法の関係について具体的問題領域を対象に問題点を検討する。

メッセージ 各自の研究目的に沿って対象領域を検討する予定です。

開設科目	刑事法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法の重要問題を考察していく。総論と各論から重要な判例を考察していく。

授業の一般目標 刑法理論の具体的事案への適用を見ていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法総論、各論の基本的問題を考察し、それぞれの学問的体系を理解して貰う。そして、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを理解して貰う。

思考・判断の観点： 法的思考の観点から、刑法理論が具体的事案にどのように適用されていくかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法総論、各論の重要問題を考察する。それぞれ重要な判例を考察していく。

成績評価方法（総合） レポート、授業での発表等を総合して評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論講義案, 安里全勝著, 成文堂, 2005 年 / 参考書： 参考書については授業の時に指摘する。

開設科目	刑事法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 財産犯の重要問題を考察していく。先ず、財産犯の基本的問題である保護法益、不法領得の意思について考察する。そして、財産犯の各類型について考察していく。窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、クレジットカード犯罪、コンピュータ犯罪について考察していく。

授業の一般目標 財産犯の基本的問題と、財産犯の各類型を考察し、それぞれの犯罪がどのような内容を持つかを理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財産犯の基本問題と、財産犯の個々の犯罪がどのような内容であるかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考の観点から、財産犯の基本的問題と、各犯罪類型がどのような内容を持ち、刑法理論がそれらの事案解決にどのように適用されているかを理解して貰う。

授業の計画（全体） 財産犯についての判例を考察していく。また、個々の事案を考察する際には関連する論文をも見ていくことにする。

成績評価方法（総合） レポートと、授業での発表、授業出席状況等によって総合的に評価していく。

教科書・参考書 教科書：経済犯罪の研究第1巻，神山敏雄著，成文堂，1991年；参考書については授業の時にその都度指摘する。

開設科目	知的財産権法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木村友久				

授業の概要 知価社会の到来により、商品化過程に介在する知的財産の価値が再認識されている。この科目では、研究開発あるいは商品製造過程で求められる知的財産に関する総合的知識の修得とスキル形成を行う。知的財産は、「製品等の開発製造過程で創作される知的財産」「営業上の信用が化体されている知的財産」「思想または感情の創作物に関わる知的財産」の三類型に区分される。知的財産権論では、学習者にこれらの全体像を認識させるとともに、特に発明の同一性判断を起点とする知識の深化と実践的態度形成に重点を置き、実際の開発製造現場で技術情報等の取得から戦略的判断に至る系統的な知的財産対応能力の形成を目指す内容となっている。即ち、特許発明の同一性判断・特許情報および特許管理・パテントマップ作成モジュールを設定することにより、受講者が特許侵害各論で部分的な法律解釈に偏ることなく、客体情報や技術等の推移を踏まえた一貫した実践的対応が可能となるようにしている。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。ここの、知的財産対応には、自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る能力も含まれる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、特許発明技術的範囲同一性判断を行い、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解する。思考・判断の観点：自己あるいは所属部門で完結した対応を行うだけでなく、状況に応じて企業内の権利化部門や侵害訴訟対応部門等と効果的な連携を図る。技能・表現の観点：(1) 研究開発や商品製造部門で、知的財産の全体像から業務上直接的に関係する事項を選択し、当該事項を業務に適用して初動段階で適切な知的財産対応を行うことができる。(2) 自己あるいは所属部門の業務に合わせて、特許等の知的財産権情報検索を適切に行い基本的なパテントマップを作成することができる。(3) 特許発明の技術的範囲について、的確な解釈を行うことができる。(4) パテントマップや特許発明の技術的範囲同一性判断等を手がかりに、技術開発動向の把握および研究開発の方向付けを行うことができる。(5) 特許侵害訴訟における基本的な法律上の論点を理解した上で、法務部門と連携して訴訟対応に必要な資料をまとめることができる。(6) 所属部門の業務に合わせた、ソフトウェア、デザイン、ノウハウを含む知的財産管理を適切に行うことができる。

授業の計画(全体) 講義では、基礎的な知識や判例を具体的な事例とともに解説する。なお、特許情報の検索ないしパテントマップ制作実習では、特許庁が提供する特許電子図書館と山口大学が運用する特許電子図書館を併用して最終的に実習レポート提出を行う。最後の総合演習は、テーマを設定した発表形式でディスカッションを実施する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 知的財産概論 内容 1 知的財産制度の全体像とそれらに共通する基本理念を理解し、研究開発あるいは商品製造部門で起こり得る事象を、知的財産制度に当てはめながら初歩的な対応をすることができる。2 新聞等の情報から知的財産領域における今日的課題を抽出し、その内容と背景を要約することができる。3 企業規模あるいは業種毎に、いくつかの代表的な知的財産戦略を理解する。

- 第 2 回 項目 特許発明の同一性判断 内容 1 発明の技術的範囲同一性判断について、法律上及び研究開発上の意義を理解する。 2 発明の技術的範囲同一性判断手法を理解し、判断に利用する参酌資料の収集と整理を行うことができる。 3 参酌資料を利用して、代表的な技術分野について初歩的な発明の技術的範囲同一性判断を行うことができる。 4 他社の特許発明を回避するための基本的な方策を立案することができる。
- 第 3 回 項目 特許情報および特許管理 内容 1 実体的特許要件を理解し、所属部門に関連する技術領域について発明特許化の可能性や特許発明について無効理由包含の有無を報告することができる。 2 手続的特許要件を理解し、所属部門における特許管理を行い、社内知的財産部門等と手続きに関し適切な連携を取ることができる。 3 特許要件の知識を基に、特許情報解釈能力を深化することができる。 特許等データベースの全体像と基本的検索方法を理解し、自立的に特許情報検索を行うことができる。
- 第 4 回 項目 パテントマップ 内容 1 特許電子図書館検索において、所属部門の研究領域に合わせてテーマ設定を行い必要な情報の検索をすることができる。 2 特許電子図書館から取得した情報を加工し、いくつかの異なる観点からパテントマップを作成することができる。 3 各自が作成したパテントマップを持ち寄り、研究開発の方向付けや開発内容について優先順位を付与することができる。
- 第 5 回 項目 特許侵害各論 I 内容 1 直接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。 2 主要な技術領域毎に、特許発明の技術的範囲同一性判断に重点を置いて、事案解決に向けた戦略立案を行うことができる。 3 均等論の現状と理論形成に至る歴史的経緯を理解し、個別事案中に均等概念を含めた特許発明の技術的範囲同一性判断を組み込むことができる。 特許侵害訴訟（直接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 6 回 項目 特許侵害各論 II 内容 1 間接侵害概念について法的根拠と具体的な事案解決手法を理解する。 2 従来から判例実務上の蓄積がある間接侵害条項（特許法 101 条 1 項、3 項）について、確立された取り扱いを理解したうえで個別事案に適用することができる。 3 平成 14 年法律改正で追加された主観的要件を加味する条項（特許法 101 条 2 項、4 項）について、制定経緯を理解し比較法的検討を加えることで個別事案への適用を試みることができる。 4 直接侵害概念と合わせて、侵害訴訟全般の基本的攻防について論理的に戦略を立てて実行することができる。 5 特許侵害訴訟（間接侵害部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 7 回 項目 特許侵害各論 III 内容 1 国内用尽概念を理解し、侵害訴訟中で当該概念を利用した理論構成を行うことができる。 2 修理補修の各種態様と用尽概念適用の可否を対応させて判断し、研究開発や商品製造現場における各種メンテナンスに対する法的対応を行うことができる。 3 国際的用尽概念を理解し、商品の輸出入において知的財産の観点から起こりうる検討課題を報告することができる。 4 特許侵害訴訟（用尽論部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 8 回 項目 特許侵害各論 内容 1 特許権の制約および利用抵触関係について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。 2 約定実施権の基本的性格を理解する。 3 法定通常実施権に共通する性格を理解し、特に先使用にもとづく法定通常実施権と職務発明にもとづく法定通常実施権について、研究開発あるいは商品製造過程で発生する事案を整理して適用することができる。 4 特許侵害訴訟（特許権の各種制約および利用抵触関係部分）において、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携した行動を取ることができる。
- 第 9 回 項目 ソフトウェアの総合的な保護 内容 1 ソフトウェアの著作権法による保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。 2 ソフトウェアの特許法による現実的な保護について、歴史的な経緯を含めて理解する。 3 ソフトウェアの各種特許表現手法を理解し、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを効果的に特許化することができる。 特許法・

著作権法等の複数の法律を利用して、所属する研究開発あるいは商品製造部門で生産したソフトウェアを総合的に保護することができる。

第 10 回 項目 デザインの総合的な保護 内容 1 意匠法によるデザイン保護の基本を理解する。 2 意匠法にもとづいて基礎的な意匠の類否判断を行うことができる。 3 不正競争防止法による商品形態模倣行為概念を歴史的推移も含めて理解し、意匠法と併せて所属する研究開発あるいは商品製造部門における総合的なデザイン保護手法を提案することができる。 4 著作権法における商業デザイン保護の可能性と限界を理解する。

第 11 回 項目 不正競争行為 内容 1 不正競争行為防止法に基づく不正競争行為の全体像を理解する。 2 民法も含めたノウハウ保護法制の全体像を理解する。 3 営業秘密の不正取得行為と法律上の手当を理解し、所属部門の営業秘密管理も含めた実務対応を行うことができる。 4 技術的制限手段の解除等行為と法律上の手当を理解し、所属部門において該当事案が発生した場合に適切な対応を行うことができる。

第 12 回 項目 総合演習 I 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 13 回 項目 総合演習 II 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 14 回 項目 総合演習 III 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

第 15 回 項目 総合演習 内容 1 パテントクリアランス関連問題を、自立的に解決できる。 2 模擬侵害訴訟の解決方法について、自立的に戦略的立案を行うことができる。 3 模擬侵害訴訟の解決を助けるために、社内知的財産部門や外部法律事務所・特許事務所等と連携して必要な報告書を作成することができる。

成績評価方法 (総合) ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポートの結果を元に成績評価を行う。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート、期末試験あるいは期末レポート、クラスへの貢献度を合計して成績を評価する。それぞれの占める比率は、ケーススタディレポートあるいは実習レポート 45%、期末試験あるいは期末レポート 40%、クラスへの貢献度(ディスカッションへの参加など) 15%。

教科書・参考書 教科書：大学と研究機関のための知的財産教本, 山口大学知的財産本部監修, EME 出版, 2004 年 / 参考書：書いてみよう特許明細書・出してみよう特許出願, 特許庁編, 特許庁, 2003 年; 研究開発活かそう社会に, 特許庁編, 特許庁, 2003 年

メッセージ ・講義中に指定した資料や判例は、一通り目を通してください。 ・パテントマップ作成等は学生自身の専門領域で作成するので、予め電子図書館等で概要を検索してください。 ・授業内のディスカッションに積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室電話番号 0836-85-9909 緊急連絡先 090-7391-4578 電子メール t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この授業は、2つの目的があります。社会科学的(主に経済)側面から外国語で書かれた文献を研究することとそこに使われている言語(英語)を的確に把握することです。その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。訳読とは違います。翻訳は翻訳の専門家に任せておけばよいのです。自分の視点との同一と相違を読み取り、それを自己表現として表現するだけのことを扱います。専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。/ 検索キーワード sociology, economics, globalization, risk, tradition, family, democracy

授業の一般目標 ・段落を追いながら、段落がどのような構造をもっているか把握する。Topic Sentence-Supporting Sentences-Conclusion の構造分解ができる。 ・それぞれの段落の中から、key words; key phrases; key sentences を求める。 ・Key として求めた情報を階層的に配列することで、アウトラインを作る。 ・アウトラインを一目見ると、その段落の情報構造が一目でわかる。 ・作ったアウトラインをもとに、一人1章ずつプレゼンテーションを行う。(英語でも日本語でもよい。) ・プレゼンテーションをしながら、オーディアンスに問題を投げかけ、授業参加者と議論する。 ・英語で summary を書く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 文構造の把握力。語彙力 辞書をしっかり活用できる。 思考・判断の観点: key words; key phrases; key sentences の抽出ができる。Key に基づいて、検索・収集した情報を階層的に配列できる。 関心・意欲の観点: 英語を読んで“うんざりしない”。英語を通して何かを学ぼうと言う態度や意欲を持つ。読んだ材料をもとに、問題意識を持てる。 態度の観点: なおざりな仕事をしない。知識と知恵に対して貪欲な態度を持つ。 技能・表現の観点: いかに正確に効率よく読んだ内容をまとめられるかを工夫する。それを、ハンドアウト(英語のアウトライン)とプレゼンテーションで他人に伝達する。

授業の計画(全体) イントロダクションを3回予定して、1.和訳をせずに内容を理解するにはどういう読み方をしたらよいか 2.段落構成は一般的にどうなっているか 3.アウトラインはどう作成するか を説明したら、1~3を実践して英語でハンドアウトを作成して、プレゼンテーションを行う。1人につき、2コマを宛てる。プレゼンテーションには関連した議論の材料をかならず用意する。プレゼンテーションが終わったところでサマリーを書く。授業では、折々にフィードバックが必要となるので、ここで示す週単位の進捗とは異なる可能性が大いにある。また、授業の効率性を考えて授業内容の順序を変えることがある。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction 1 内容 How to read English
- 第 2 回 項目 Introduction 2 内容 How is the paragraph composed?
- 第 3 回 項目 Introduction 3 内容 The writing of an outline in English
- 第 4 回 項目 Chapter 1 Globalization 1 内容 Presentation
- 第 5 回 項目 Chapter 1 Globalization 2 内容 Discussion Assessment
- 第 6 回 項目 Chapter 2 Risk 1 内容 Presentation
- 第 7 回 項目 Chapter 2 Risk 2 内容 Discussion Assessment
- 第 8 回 項目 Chapter 3 Tradition 1 内容 Presentation
- 第 9 回 項目 Chapter 3 Tradition 2 内容 Discussion Assessment
- 第 10 回 項目 Chapter 4 Family 1 内容 Presentation
- 第 11 回 項目 Chapter 4 Family 2 内容 Discussion Assessment
- 第 12 回 項目 Chapter 5 Democracy 1 内容 Presentation

第 13 回 項目 Chapter 5 Democracy 2 内容 Discussion Assessment

第 14 回 項目 Summary Writing 内容 How to write a summary based on your outline

第 15 回 項目 Overview 内容 Why RUNAWAY WORLD?

成績評価方法 (総合) ・出席は欠格条件とする。(自分の順番のときに発表できないときは欠席とする。)
欠席は 3 回を超えると不合格となる。 ・アウトラインを作成してハンドアウトを書く。 ・プレゼンテーションで他人への伝達がどれほどできるか。 ・アウトラインをもとにサマリーを書く。

教科書・参考書 教科書： Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000 年 ;
http://news.bbc.co.uk/1/hi/english/static/events/reith_99/default.htm にアクセスすれば、テキストが得られる。 / 参考書： Anthony Giddens の他の著書

メッセージ アウトラインをしっかりと作ってください。そして、説得力のある自己主張/自己表現をしてください。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	外国文献研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この授業では、外国文献研究 A で行った全体の意味を取る作業から一変して、そこにある文献の英語を丹念に読みます。そして、その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。

そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。翻訳とは違います。社会科学の英語を自分のコミュニケーションの手段として使えるようになることです。自分の視点との同一と相違を読み取ることが重要です。専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。 / 検索キーワード 基本的な文法、語彙、発音、ハンドアウト

授業の一般目標 ・単語や決まり文句を学ぶ。 ・文構造を把握する。 ・段落のあり方を学ぶ。キーワードやキーセンテンスを拾い直す。 ・英語の発音やリズムを正しくする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文法の基礎を再学習する。 思考・判断の観点：筆者が何をどう考えて、どう表現しようとしたのかを、文構造、語彙、段落構造から把握する。 関心・意欲の観点：文献中にある英語を自分の磁場に持ってきて、使おうとする意欲。 態度の観点：面倒くさがらずに、調べなければならないことをきちんと調べる（例えば、単語の使われ方、使用環境（例）や文法環境まで調べる。 技能・表現の観点：正しく発音し、読み聞かせるだけの技能を持つ。

授業の計画（全体） ・1人、1章ずつ担当して、文構造、段落構造、そこに用いられている語彙に関して、自作のハンドアウトをもとに発表する。 ・わからない箇所をわからないものとして、きちんと認識する。 ・最終的には、「何」を「どう」考え、「どう」表現するか、を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 1.Globalization-Part 1
- 第 3 回 項目 1.Globalization-Part 2
- 第 4 回 項目 2.Risk-Part 1
- 第 5 回 項目 2.Risk-Part 2
- 第 6 回 項目 Intermissionary session 1
- 第 7 回 項目 3.Tradition-Part 1
- 第 8 回 項目 3.Tradition-Part 2
- 第 9 回 項目 4.Family-Part 1
- 第 10 回 項目 4.Family-Part 2
- 第 11 回 項目 Intermissionary Session 2
- 第 12 回 項目 5.Democracy-Part 1
- 第 13 回 項目 5.Democracy-Part 2
- 第 14 回 項目 Intermissionary Session 3
- 第 15 回 項目 Wrap-up Session

成績評価方法（総合） ・提示されるハンドアウトから自学自習がどのように出来ているか。 ・ハンドアウトをもとに、どう自分が読んだかをどのように発表できたか。 ・発音やリズムの上達度。

教科書・参考書 教科書：Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000年；テキストを買うのがいちばん学習がしやすいが、Websiteからも入手できる。

メッセージ 辞書を丹念にひく。音読をする。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 中国語で書かれた経済関係の文献の読み方について、語学にこだわらない重要経済情報のつかみ方、あるいは文献速読のスキル、そのためのテクニカルタームなどを伝授する。各自関心のあるテーマの中国語雑誌、あるいはインターネットからの抜き出し記事などをもとにする。

授業の一般目標 中国語経済記事など経済関係の情報を簡単につかめるように能力を高める。もちろん、ある程度の予習と復習が求められる。

授業の計画（全体） 前半は教える側が範を示す。後半は教師・学生がともに読み込む。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国語の基本 (1)
- 第 2 回 項目 中国語の基本 (2)
- 第 3 回 項目 中国語の基本 (3)
- 第 4 回 項目 経済中国語ーテクニカルターム (1)
- 第 5 回 項目 経済中国語ーテクニカルターム (2)
- 第 6 回 項目 経済中国語ーテクニカルターム (3)
- 第 7 回 項目 事例研究
- 第 8 回 項目
- 第 9 回 項目
- 第 10 回 項目
- 第 11 回 項目
- 第 12 回 項目
- 第 13 回 項目 ”
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 努力と熱意、そのための出席、予習と復習。

開設科目	Advanced Microeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Yoshiaki YUTAKA				

授業の概要 The purpose of the class is to understand the theory of microeconomics. Students attending the class should give a lecture to them.

授業の一般目標 1. To understand the theory of microeconomics. 2. To express your opinions about economic events on the basis of the theory of microeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: To understand the theory of microeconomics. **思考・判断の観点:** To express your opinions about economic events on the basis of the theory of microeconomics.

授業の計画 (全体) The class will be proceeded along with the textbook.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 The Market
- 第 3 回 項目 Consumer Behavior (1)
- 第 4 回 項目 Consumer Behavior (2)
- 第 5 回 項目 Individual and Market Demand (1)
- 第 6 回 項目 Individual and Market Demand (2)
- 第 7 回 項目 Production (1)
- 第 8 回 項目 Production (2)
- 第 9 回 項目 The Cost of Production (1)
- 第 10 回 項目 The Cost of Production (2)
- 第 11 回 項目 Profit Maximization and Competitive Supply (1)
- 第 12 回 項目 Profit Maximization and Competitive Supply (2)
- 第 13 回 項目 The Analysis of Competitive Markets
- 第 14 回 項目 General Equilibrium and Economic Efficiency (1)
- 第 15 回 項目 General Equilibrium and Economic Efficiency (2)

成績評価方法 (総合) The evaluation will be made based on the contribution to the class.

教科書・参考書 教科書: Microeconomics (5th edition), Pindyck and Rubinfeld, Prentice Hall, 2001 年

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Mathematics for Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Yoshimi Kashiwagi (柏木 芳美)				

授業の概要 This course is to introduce students mathematics used in microeconomics. By using mathematics, things in economics will become clear and we can handle them theoretically. Actually microeconomics has been developed by mathematics. The goal of this course is to understand the mathematics which is used in solving the utility maximizing problem and the expenditure minimizing problem. The starting point depends on your knowledge of mathematics. We will begin by checking it. Topics include: basic mathematics, differentiation of functions of one variable, differentiation of functions of several variables, determinant, quasiconcave functions, Lagrangian method.

授業の一般目標 To understand Mathematics using in Microeconomics.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点 : 1. Can use basic mathematics. 2. Can calculate derivatives of functions. 3. Understand the basic properties of determinants and can calculate concrete determinants. 4. Understand the meaning of utility maximization problems and expenditure minimization problems, and can solve them. **思考・判断の観点** : 1. Can study economic problems using mathematics. **関心・意欲の観点** : 1. Have interest concerning economic phenomena around us.

授業の計画 (全体) Preliminary test, review of fundamentals, basics of differentiation, elasticity, local maxima and local minima, utility maximization problem, expenditure minimization problem.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Preliminary test
- 第 2 回 項目 The objective of this lecture
- 第 3 回 項目 Review of fundamentals 1
- 第 4 回 項目 Review of fundamentals 2
- 第 5 回 項目 Review of fundamentals 3
- 第 6 回 項目 Derivatives
- 第 7 回 項目 Increasing and decreasing
- 第 8 回 項目 Elasticity
- 第 9 回 項目 Local maxima and local minima
- 第 10 回 項目 Global maxima and global minima
- 第 11 回 項目 Partial derivatives 1
- 第 12 回 項目 Partial derivatives 2
- 第 13 回 項目 Simultaneous equations
- 第 14 回 項目 Utility maximization problem
- 第 15 回 項目 Expenditure minimization problem

成績評価方法 (総合) Checking assignments.

教科書・参考書 教科書 : Use prints

メッセージ Have to solve exercises given in each lecture.

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, Tel:933-5595, Office:C213. If you have any question, visit my office at any time.

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 Introduction to macroeconomics

授業の一般目標 This course is designed to understand the basic concept and framework of macroeconomics.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Data of Macroeconomics
- 第 2 回 項目 Goods Market
- 第 3 回 項目 Keynesian Cross
- 第 4 回 項目 Multiplier
- 第 5 回 項目 IS Curve
- 第 6 回 項目 Money Market
- 第 7 回 項目 LM Curve
- 第 8 回 項目 IS-LM Model
- 第 9 回 項目 Monetary and Fiscal Policy
- 第 10 回 項目 Shocks in the IS-LM Model
- 第 11 回 項目 Real Exchange Rate and Net Exports
- 第 12 回 項目 Mundell-Fleming Model
- 第 13 回 項目 Small Open Economy Under Floating Exchange Rates
- 第 14 回 項目 Small Open Economy Under Fixed Exchange Rates
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書 : Macroeconomics, Fifth Edition, N. G. Mankiw, Worth Publishers, 2002 年

開設科目	Public Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 This course will set out the basic framework for the analysis of policies, programs, projects, regulations, and other government interventions. One needs to know whether the benefits (revenues) of all policy consequences exceed the costs (expenditures). The analysis tries to consider all of the costs and benefits to society as a whole. The objective is to facilitate more efficient allocation of society's resources. Where markets work well, individual self-interest leads to an efficient allocation of resources. Consequently, programs of government intervention move the market away from a competitive equilibrium, creating distortions in the market as economic resources are reallocated. In perfectly competitive markets there are no externalities. Externalities are present in a market if the actions of either consumers or producers lead to costs or benefits that are not reflected in the price of the product in the market. Where markets fail, there is a rationale for government intervention. One must be able to demonstrate the superior efficiency of a particular intervention relative to the alternatives. For this purpose, we use public economic theory.

授業の一般目標 This course will be devoted to a discussion of the main conceptual issues involved in public economics.

開設科目	Cost - Benefit Analysis	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 This course is an introduction to the main ideas of decision theory and game theory.

教科書・参考書 参考書： Benefit-Cost-Analysis Financial and Economic Appraisal using Spreadsheets
Harry F.Campbell and Richard P.C.Brown The University of Queensland Cambridge University Press

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518

開設科目	Economic Statistics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 Simulation models have been widely used in the design of public policy. For example, simulation models could answer questions like the following: (1) What is the impact of an increase in the federal budget deficit on the level of interest rates and the rate of inflation? (2) How does the trade deficit affect the level of employment and the bargaining position of labor unions? (3) What is the relationship between the quantity of money, say M1, and the level of economic activity? This course focuses upon econometric simulation models. Therefore we explain how to estimate a single equation model at first. For most economic decision or choice problems, we want to know the relationships between economic variables, which are suggested by economic theory. These are called economic models. These economic models involve questions concerning the signs and magnitudes of unknown and unobservable parameters, such as price elasticities and multipliers.

授業の一般目標 One of our goals is to give you some idea of how we introduce parameters into an economic model and how we estimate them. Then we discuss the construction, evaluation, and analysis of simultaneous equation models and their use in policy analysis and forecasting. At the end of this course we will construct our own simulation models and evaluate their dynamic behavior.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な統計学の理論を理解している。 **思考・判断の観点：** 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。** **技能・表現の観点：** 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 **統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。**

授業の計画（全体） 1. Single Equation Models 2. Simultaneous Equations Models 3. Dynamic Behavior of Simulation Models

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Statistical model 内容 Statistical model
- 第 2 回 項目 Econometric estimates 内容 The Least Squares Principle
- 第 3 回 項目 Statistical inference (1) 内容 R2
- 第 4 回 項目 Statistical inference (2) 内容 F test
- 第 5 回 項目 Statistical inference (3) 内容 t tests
- 第 6 回 項目 Some notes for econometric estimates (1) 内容 seasonality, trends, dummy variables
- 第 7 回 項目 Some notes for econometric estimates (2) 内容 Heteroskedasticity
- 第 8 回 項目 Some notes for econometric estimates (3) 内容 Autocorrelation
- 第 9 回 項目 Simultaneous equations models (1) 内容 Simultaneous equations models
- 第 10 回 項目 Simultaneous equations models (2) 内容 IS-LM models
- 第 11 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (1) 内容 Dynamic behavior of simulation models
- 第 12 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (2) 内容 Stability
- 第 13 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (3) 内容 Multipliers and dynamic response (1)
- 第 14 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (4) 内容 Multipliers and dynamic response (2)
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法（総合） 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

教科書・参考書 教科書：“Basic Econometrics, 4th Edition, with EViews 3.1 Student Version software”, “Gujarati, Damodar N.”, McGraw-Hill Higher Education Publishing, 2002 年

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける（講義中に指示）

開設科目	Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 Decisions today are probably more complex and difficult than at any time in the past. To improve our decision making abilities, we should consider both how these decisions are made and how they should be made. In this course we will focus on; 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

授業の一般目標 To improve our decision making abilities.

授業の計画 (全体) 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models

成績評価方法 (総合) Exercises: 50 % Attendance: 50 %

開設科目	Program Evaluation	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 This lecture is program evaluation in action. More specifically, the lecture applies the theory-driven evaluation approach to address the following three steps. 1. Systematically identifying stakeholder's needs. 2. Selecting Evaluation options best suited to particular needs. 3. Putting the selected approach into action

授業の一般目標 1. To understand the basic concepts and conceptual framework of program evaluation.
2. To understand how program evaluation can be used to assist stakeholders as they plan programs.
3. To understand evaluation approach and methods.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Fundamentals for Practig Program Evaluation
- 第 3 回 項目 A Conceptual Framework of Program Theory for Practitioners
- 第 4 回 項目 A Practical Evaluation Taxonomy
- 第 5 回 項目 Assisting Stakeholders as They Formulate program Rationales
- 第 6 回 項目 How Evaluators Assisi Stakeholders in Developing Program Plans
- 第 7 回 項目 Development-Oriented Evaluation Tailored for the Initial Implementation
- 第 8 回 項目 Assessing Implementation in the Mature Implementation Stage
- 第 9 回 項目 Monitoring the Progress of a Program
- 第 10 回 項目 Evaluating Outcomes
- 第 11 回 項目 Theory-Driven Outcome Evaluation
- 第 12 回 項目 Looking Forward
- 第 13 回 項目 Case Studies
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： Practical Program Evaluation, HUEY-TSYH CHEN, SAGE Publications, 2005 年

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Statistical Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	HASHIMOTO, Hiroshi				

授業の概要 Decision making using statistical techniques and stochastic models will be treated. Problems of decision making under uncertainty are difficult to solve, but they are interesting and important in their real application. First mathematical preliminaries and basic results are given shortly. Then some useful methods in advanced statistics and operations research are introduced and discussed by using practical examples.

授業の一般目標 The objectives of this class are to increase understanding of the principles of statistical problem solving and to study the statistical methods and probability models required in the decision making process.

授業の計画（全体） まず、必要な数学的準備をして、基礎的な概念やモデルを紹介し、主要な手法と例題を取り上げる。

成績評価方法（総合） 出席およびレポートによる。

教科書・参考書 教科書： We will not use a textbook.

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	Postwar Japanese International: An Overview	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	今津武				

授業の概要 After World War II, the Japanese Government and Japanese nationals made huge efforts to recover from the destruction of the war, and Japanese people have had the earnest desire to rejoin the international society and contribute to global prosperity as a “ Peaceful Country ”. To realize this wish, the Japanese Government has taken the policy to establish friendly and close relations with all countries in the World as the main plank of our diplomacy. Furthermore, we started providing Aid toward developing countries from the early post-war years of recovery. And at present, International Aid has been always very important axis of Japan ’s international politics. Under these circumstances, understanding the history, policy and practice of Japan ’s ODA would be useful to get valuable insights into Japan ’s Post-war international politics. / 検索キーワード International Cooperation, Official Development Assistance(ODA)

授業の一般目標 After studying the outline of history, policy and practice of Japan ’s ODA, students are requested to consider and examine how to develop the future relationship between Japan and her/his country using Japan ’s ODA and to prepare a proposal paper on it.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Students will evaluate Japanese international cooperation policy considering the past relations between Japan and developing countries established by using mainly ODA. **思考・判断の観点:** Students will consider the future direction of Japan ’s international policy from the point of view of developing countries. **関心・意欲の観点:** Students in this course come from developing countries and almost of them are government officials in respective countries. So they will be expected to play a important roll for the development of each country. They must learn concrete approach to Japan ’s ODA for using it effectively and efficiently for the development of their own countries.

授業の計画 (全体) Through the series of lectures, students will deepen their general understandings of Japan ’s ODA. Moreover students are requested to put together their thoughts and present them to the other members of the class, and to participate in discussions on each presentation. Finally, students should prepare their proposals on how to use the instrument of Japan ’s ODA to promote their own countries social and economic development, and to establish friendly relations between both countries.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Guidance 内容 ・ the Course Plan ・ Professor’s Experiences Related with International Cooperation
- 第 2 回 項目 The New Structure of International Politics after World War II 内容 ・ The Relationship between Old-world and New Independent Countries ・ East-West Cold War Structure etc.
- 第 3 回 項目 History of Japan’ ODA and its Political Meanings 内容 ・ Japan’s Reintegration to International Community ・ War Reparation and Trade Promotion Policy ・ Long Way to Top Donor in the world
- 第 4 回 項目 The Current Trend of International Cooperation and Japan’s Involvement 内容 ・ Millennium Development Goals ・ International Support to Africa ・ The War against Global Terrorism (Poverty Reduction)
- 第 5 回 項目 The View of Students 内容 ・ Evaluation and Criticism to Japan’s ODA ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class
- 第 6 回 項目 Japan’s ODA Policy 内容 ・ ODA Charter ・ Medium-Term Policy on ODA

- 第 7 回 項目 The Framework of Japan's Economic Development Cooperation 内容 ・ The Role of ODA and Private Sector ・ Implementation Structure of ODA and its Budget
- 第 8 回 項目 A Foreigner's View 内容 Japan's International Relations and ODA
- 第 9 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (I) 内容 ・ Financial Cooperation (Grant Aid and Yen Loan)
- 第 10 回 項目 The Implementation Mechanism of ODA (II) 内容 ・ Technical Cooperation
- 第 11 回 項目 The Challenges of Developing Countries 内容 ・ Poverty Reduction ・ Human Security ・ Pro-poor Development
- 第 12 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ Students are requested to prepare the papers on the issue and present them to the class
- 第 13 回 項目 The Development Agenda of Student's Home Country 内容 ・ The Preparation of Appropriate Plan Using Japan's Cooperation for the Challenges Identified in 12th Class
- 第 14 回 項目 Presentation of the Project Prepared in 13th Class 内容 ・ Students are requested Project Paper and present them to the class
- 第 15 回 項目 Summary of Lecture or Occasional Date 内容 ・ Evaluation of the Class by Students

成績評価方法 (総合) Judging the achievement level of each assignment such as presentations in the class and prepared papers. The attendance in the class will also be considered for final grading.

教科書・参考書 教科書： Handouts delivered by lecturer

連絡先・オフィスアワー E-mail : imazu@yamaguchi-u.ac.jp Room : Faculty of Economics C-Block 2nd Floor (C-218) Office Hour : Friday 1:30pm to 4:30pm

開設科目	Academic Writing	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Timothy Takemoto				

授業の概要 This course is to provide participants with experience of writing papers in English. As subject matter for the class we will consider and discuss defining characteristics and differences between European and Japanese culture. Participants will also be encouraged to present and write about their own research. / 検索キーワード Style, Grammar, Corrections, Presentation, Precis, Japanese Culture

授業の一般目標 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1) To know the rules regarding the style of academic presentations.

技能・表現の観点: 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

授業の計画 (全体) 1) Lexical and Grammatical Register Students will be encouraged to become aware of the differences between formal (academic) and informal (conversational) vocabulary and grammar. Emphasis will be placed in raising students' awareness of the register of the lexicon and grammatical structures used in academic writing. 2) Academic Grammatical Constructions Students will be introduced and trained in the use of typical academic grammatical forms, in particular: the passive voice, compound sentences, and structures for making hypotheses, asserting conclusions and refuting arguments. 3) Abstracts and Pr & eacute;cis The methods and rules for producing pr & eacute;cis and abstracts of ones own and others work will be taught with emphasis placed on developing students' ability to condense, paraphrase and synopsisise work in their own research field. 4) Structure and Organisation The structure and organisation of academic presentations, journal papers will be introduced with reference to cultural norms and international standards. Students will be required to present their own research in a format applicable for presentation and publication according to recognised academic structural norms. 4) Plagiarism, References and Citation Students will be advised as to the rules concerning the use, and abuse, of references to other academic works, including standards for citation, references and bibliographies. Students will also be guided in the use of search techniques and databases for the retrieval of pertinent bibliographic material. 5) Correction and Amendment Standards and techniques for the correction and amendment of academic texts will be introduced via reciprocal feedback and mock ' peer review '. Students will be required to present their own research and to provide constructive comment on the work of others. 6) Formal Presentation Students will be required to give a formal presentation to their peers and to a wider public via the World Wide Web. The use of information processing technology, such as Microsoft PowerPoint will be discussed.

成績評価方法 (総合) Participants will be evaluated by reference to participation in class and frequent written submissions and a final presentation.

メッセージ Please bear in mind that you will be required to submit your writing weekly via email.

連絡先・オフィスアワー mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp homepage: <http://www.nihonbunka.com>

開設科目	企業法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本講義では、学部において2005年改正商法前のいわゆる会社法を学んできた受講生を対象に、新「会社法」テキストを講読しつつ、重要判例の報告にもとづいて討論を行う。/ 検索キーワード 会社法・商法・有限会社法・商法特例法・企業法

授業の一般目標 受講生が新会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学にも接することを目標とする。

授業の計画(全体) 講義開始時に履修者と相談して決める。

成績評価方法(総合) (1) 割り当て箇所の報告, (2) レジユメの作成, (3) 討論への参加の度合い, について自主性(各15%×3)と発展性の観点(各15%×3)から評価し, そこにゼミへの貢献度(10%)を加味する。

教科書・参考書 教科書: テキストブック新「会社法」, 末永敏和[編著], 中央経済社, 2005年 / 参考書: 会社法判例百選, 江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬[編], 有斐閣, 2006年

メッセージ 2006年六法必携。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワー: 研究室C棟209, オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

企業経営専攻

開設科目	現代企業組織の事例研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 企業管理組織の理論研究を踏まえて、この授業では、個別ケースと取上げる。 / 検索キーワード 経営組織の問題を扱うので、政治経済の議論は、期待できない。

授業の一般目標 個別の事例研究で、理論を越えた微妙なタイミング、交渉、駆け引き当が見えて来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経営組織の基本的知識を前提にし、最近の経営組織問題について、理解を深める。 思考・判断の観点： 最近の戦略と組織問題について、思考し判断できる。

授業の計画（全体） 授業は、最近の欧米の経営管理の個別動向を紹介し、議論を求める。

米国企業の管理組織の動向

日本企業の管理組織の動向

中国への日本企業の進出

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 2 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
- 第 3 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 4 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
- 第 5 回 項目 分社制組織
- 第 6 回 項目 分社制組織
- 第 7 回 項目 ナレッジ管理
- 第 8 回 項目 ナレッジ管理
- 第 9 回 項目 ネットワーク組織
- 第 10 回 項目 ネットワーク組織
- 第 11 回 項目 ネットワーク組織
- 第 12 回 項目 組織文化と開発
- 第 13 回 項目 組織文化と開発
- 第 14 回 項目 組織開発の方法
- 第 15 回 項目 組織開発の方法

メッセージ 授業は出席し、自分の考えるところを、述べる。

開設科目	会計政策論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松浦良行				

授業の概要 近年の会計基準の変更により、我が国の会計制度も国際会計基準にますます接近してきました。国際会計基準への接近は、情報利用者にとってどのような意義があるのかについては、海外（とりわけヨーロッパ）で多くの実証研究が行われています。本講義では、これらの研究蓄積を読んでいきます。 / 検索キーワード 国際会計基準、時価評価、回帰分析

授業の一般目標 国際的な会計基準統一の実態的な意義を理解します。また、代表的な実証分析のスタイルを理解します。

授業の計画（全体） おおよそ2週間に一本の割合で代表的な研究を読破し、また可能であればそれに関連した我が国企業に関する分析を行っていきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はいりません。

教科書・参考書 教科書：受講生と相談の上、追って指示します。

メッセージ 検討していく論文は、日本語と英語のものが半々くらいになる予定ですが、皆さんの興味や理解度に応じて進度とあわせ柔軟に調整していくつもりです。ただし、それなりに英語文献を読める能力が必要です。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp(私は原則的に週一回しか吉田キャンパスに来ません。履修を希望される方は、事前に左記のアドレスまでメールして下さい。)

開設科目	資本市場の財務情報の役割研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松浦良行				

授業の概要 近年、無形固定資産の株価説明力が注目されてきています。この講義では、下の教科書欄に示す本を中心として、研究開発活動と株価の関係を理解していきます。 / 検索キーワード 財務報告、R & D、資本市場

授業の一般目標 受講生の皆さんが、研究開発の経済的価値計算の基本フォーマットを把握し、その管理方法を含めた管理技法に関心を持てるようになれば、と思っています。

授業の計画（全体） 技術評価の方法の基本フォーマットを把握し、表計算ソフトを利用して実際に研究開発の財務的管理の概要を理解していきます。

成績評価方法（総合） 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はいりません。

教科書・参考書 教科書：技術経営と価値評価, P. ボイヤー, 日本経済新聞社, 2004 年

メッセージ 私は通常常盤キャンパスにあり、原則週に一回しか吉田キャンパスには来ません。履修を希望される方は、事前に下記のアドレスまでご連絡下さい。

連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、金融工学(ファイナンス)理論や情報の経済学など、よりアドバンスト(発展的)な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。/検索キーワード 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT(価格裁定理論)
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	金融経済と貨幣理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。 / 検索キーワード 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	グローバル企業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

授業の概要 グローバル企業としてトヨタ自動車を取りあげる。ジェフリー・k・ライカー『ザ・トヨタウェイ』を材料にグローバル企業とは何なのかを検討する。

授業の一般目標 トヨタ自動車は最も革新的な企業でありかつ日本的経営の要素を色濃く残した企業である。トヨタ自動車の研究を通して、グローバル企業とは何かを理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自動車産業への理解 経営一般への理解 国際経営への理解 レポートで確認する。 思考・判断の観点：上記理解がどれほど応用性をもっているか レポートで確認する。

授業の計画(全体) 1 ジェフリー・k・ライカー『ザ・トヨタウェイ』の理解 2 トヨタに関する文献たとえば藤本隆宏『生産システムの進化論』の理解

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 文献紹介
- 第 2 回 項目 ザ・トヨタウェイ(1) 内容 第1章 第2章
- 第 3 回 項目 ザ・トヨタウェイ(2) 内容 第3章 第4章 第5章 第2章
- 第 4 回 項目 ザ・トヨタウェイ(3) 内容 第6章 第7章
- 第 5 回 項目 ザ・トヨタウェイ(4) 内容 第8章 第9章
- 第 6 回 項目 ザ・トヨタウェイ(5) 内容 第10章 第11章
- 第 7 回 項目 ザ・トヨタウェイ(6) 内容 第12章 第13章
- 第 8 回 項目 ザ・トヨタウェイ(7) 内容 第14章 第15章 第16章
- 第 9 回 項目 ザ・トヨタウェイ(8) 内容 第17章 第18章
- 第10回 項目 ザ・トヨタウェイ(9) 内容 第19章 第20章
- 第11回 項目 ザ・トヨタウェイ(10) 内容 第21章 第22章
- 第12回 項目 生産システムの進化論(1) 内容 第4章
- 第13回 項目 生産システムの進化論(2) 内容 第5章
- 第14回 項目 生産システムの進化論(3) 内容 第6章
- 第15回 項目 生産システムの進化論(4) 内容 第7章 講義まとめ

成績評価方法(総合) 毎回のレポート及び最終レポートで評価

教科書・参考書 教科書：『ザ・トヨタウェイ』上下、ジェフリー・k・ライカー、日系BP、2005年 / 参考書：生産システムの進化論、藤本隆宏、有斐閣、1997年

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：産業革命期の日本経済 本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産業革命は、欧米諸国のそれと比べてどのような特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたどって展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、といった点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

授業の一般目標 ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。

授業の計画(全体) 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も行う。

成績評価方法(総合) 課題の報告(45%)およびレポート(30%)による。この他、授業への取り組み(15%)、出席(10%)。

教科書・参考書 教科書：『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年 / 参考書：この他の参考書は適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・この授業は後期に開講する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本経済史研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 テーマ：日本経済近代化と企業家の役割 明治・大正・昭和にかけての近代日本経済史について、「企業家 (entrepreneur)」の活動およびその役割に焦点を絞って取り扱う。19世紀半ば、黒船の来航による西洋文明の衝撃によって近代国家への道を歩み始めた日本が、西洋の先進技術を貪欲に吸収し、種々の産業を興し、工業化を推進し、ついには産業革命を達成するなど、驚異的経済発展を遂げた事実は広く知られている。その発展の要因には様々なものが考えられるが、近年特に注目されているのが「企業家」の果たした役割である。「企業家」活動が経済発展に与える役割の大きさは、シュンペーターによって理論的に指摘されて以来、経済史学・経営史学に多大な影響を与え、多くの研究蓄積をもたらしている。本授業では、こうした研究成果を踏まえつつ、日本の「企業家」群像の諸活動を通じて、近代日本の経済発展について多面的に考察していきたい。 / 検索キーワード 日本経済史、日本近代史、経営史、企業家

授業の一般目標 ・近代日本の経済史について理解を深める。 ・「企業家」の諸活動が日本の産業革命、近代化に及ぼした影響を多面的に考察する。 ・修士論文に向けた知識や手法の習得を目指す。

授業の計画 (全体) 当面は下記のテキスト『企業家たちの挑戦』を輪読する。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も適宜行う。

成績評価方法 (総合) 課題の報告 (45 %) およびレポート (30 %) による。この他、授業への取組み (15 %)、出席 (10 %)。

教科書・参考書 教科書：企業家たちの挑戦, 宮本又郎, 中央公論新社, 1999年; テキストは各自購入すること。 / 参考書：近代日本経営史の基礎知識 (増補版), 中川敬一郎他編, 有斐閣, 1997年; この他の参考書は適宜紹介する。

メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・この授業は前期に開講する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”Illness as Metaphor” (1978) を読んでいく。「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。

授業の一般目標 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。

授業の計画(全体) 教材を半期の間に最後まで読み通す。

成績評価方法(総合) 授業時の発表(2)、期末レポート(8)に基づき成績評価を下す。尚、()内の数字はおおよその割合を示している。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。 / 参考書：隠喩としての病い・エイズとその隠喩, スーザン・ソニタグ, みすず書房, 1992 年

連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の講読研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”AIDS and Its Metaphor” (1989) を読んでいく。AIDS という「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。

授業の一般目標 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。

授業の計画(全体) 教材を半期の間に最後まで読み通す。

成績評価方法(総合) 授業時の発表(2)、期末レポート(8)に基づき成績評価を下す。尚、()内の数字はおおよその割合を示している。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。 / 参考書：隠喩としての病い・エイズとその隠喩, スーザン・ソントグ, みすず書房, 1992 年

連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	環境変化と管理会計の課題研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 管理会計の伝統的な理解では、経営は、経営陣が担う戦略策定、管理職が担うマネジメント・コントロール、現場が担うオペレーション・コントロールと、階層に分けられてきました。その中で管理会計が主に担うのはマネジメント・コントロールであり、戦略についてはそれを所与として受け入れるだけでした。しかし、90年代頃から戦略の重要性が高まるにつれ、管理会計の役割も従来の戦略を所与とした考え方ではなく、戦略と密接に繋がり、戦略と一体化したマネジメントとして捉え直されるようになりました。そこでこの授業では、バランスト・スコアカードと呼ばれる戦略的管理会計手法を中心として、現代の管理会計が直面する課題について検討します。

授業の一般目標 B S C (バランスト・スコアカード) の考え方を身につけ、戦略をマネジメント (戦術) へと落とし込むことや、財務パフォーマンス向上に繋がる財務指標と非財務指標の関連を考えることができるようになる。

授業の計画 (全体) B S C に関する文献を中心に、現代の戦略的マネジメント・コントロールに関して議論する。

成績評価方法 (総合) 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

教科書・参考書 教科書：初回の授業の際に決定します。 / 参考書：管理会計入門 (日経文庫 ; 794), 加登 豊著, 日本経済新聞社, 1999 年 ; 学部レベルの管理会計については各自で自習しておくことが望ましい。

開設科目	非物的経済財の資産化と原価計算 研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 ソフトウェアは非物的経済財の典型である。財務会計においては近年ソフトウェアに関する取り扱いが変更されてきた。本講義では、管理会計の立場からソフトウェアの取り扱いについて研究する。

授業の一般目標 ソフトウェアといっても様々なバリエーションがある。大きくは販売用ソフトウェアと自社内利用ソフトウェアである。また、ソフトウェアを生み出す企業にも種類があるし、さらにソフトウェアが利用される企業環境にも違いがある。上記のようなソフトウェアの価値はどのように決定されるべきかについて研究する。

授業の計画(全体) テキストを決め、それを順番に報告してもらう形で授業を進める。

成績評価方法(総合) 授業への出席と報告によって評価する。

教科書・参考書 教科書：未定

開設科目	情報伝達と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 本来、会計は情報伝達機能を内在するものであるが、今日では伝達機能を重視して情報会計という言葉まである。本講義では情報伝達の観点から、利害調整等、会計の基本機能について学んでいく。

授業の一般目標 今年度に関り、制度改革が一段落したので、財務諸表の作成を通じて、会計の情報機能を確認する。したがって、基礎力が求められるので、そのつもりで参加すること。

教科書・参考書 参考書： Accounting Theory, Conceptual Issues in a Political and Economic Environment, Sixth Edition, Harry I. Wolk, James L.Dodd, Michael G. Tearney, Thomson south-western, 2004 年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して決める。

開設科目	意思決定と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 会計の機能を、企業資本の統一的・全体的管理に求め、企業経営の判断にとって必要な会計上の視点・手法を総合的に学んでいく。

授業の一般目標 今年度に関り、制度改革が一段落したので、財務諸表の作成を通じて、会計の情報機能を確認する。したがって、基礎力が求められるので、そのつもりで参加すること。

教科書・参考書 教科書： Accounting Theory, Conceptual Issues in a Political and Economic Environment, sixth edition, Harry I. Wolk, James L. Dodd, Michael G. Tearney, Thomson, 2004 年

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して決める

開設科目	財務諸表分析の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	篠原 淳				

授業の概要 財務諸表の基本構造の理解と会計における標準化の流れを検討し、企業の財務諸表にどのように反映されているのかを検討する。 / 検索キーワード 財務諸表、国際会計基準、時価会計

授業の一般目標 各会計基準設定の背景や問題点を理解した上で財務諸表分析を行う

授業の計画(全体) テキストに沿いながら、各章を発表してもらいながらディスカッションを行う

成績評価方法(総合) 報告およびレポート、討論への参加状況を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002年; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務経理協会, 2005年; 必要な場合には適宜指示する。

メッセージ 積極的な参加を望みます。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	財務諸表分析の応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	篠原 淳				

授業の概要 財務諸表の基本構造の理解と会計における標準化の流れを検討し、企業の財務諸表にどのように反映されているのかを検討する。国際会計基準やわが国の会計基準設定時の問題点が基準にどう反映されたのか、あるいは設定後にどのような問題点が生じてきたのかを具体的に検討していく。 / 検索キーワード 会計基準設定、企業行動、企業評価

授業の一般目標 各会計基準設定の背景や問題点を理解し、さらに会計基準の運用面で生じた課題を通して財務諸表をみていく。

授業の計画(全体) テキストに沿いながら、各章を発表してもらいながらディスカッションを行う

成績評価方法(総合) 報告およびレポート、討論への参加状況を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：基本会計学, 吉田寛, 税務経理協会, 2002年; 国際財務会計論, 氏原茂樹, 税務経理協会, 2005年; 必要な場合には、適宜指示する。

メッセージ 積極的な参加を希望する。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経営数理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 "システム"の分析においては、システムを入出力モデルや目的追求モデルとしてとらえることが多い。このようなとらえ方はシステムズアプローチとして主に工学的分野で成果をみたが、本講義では、社会科学分野でのシステムズアプローチの適用の可能性を探る。

授業の一般目標 研究対象を "組織"と仮定し、組織に関わる諸現象を数理的にとらえることを目標とする。たとえば、組織を入出力システムとみなしたときの、組織内システムの作用と外部(環境)との関係に注目し、組織の環境変化に対する指標として、たとえばアシュビーの「最小多様度の法則」等を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 組織内で発生する様々な現象が全体にどのように影響を与えるかを分析できる知識。 組織外の要因を、組織が制御可能なものと制御できないものに分け、特に制御できない要因(環境)への組織の対応に関する知識。 思考・判断の観点: ある現象が影響を及ぼす範囲と程度について正しい思考と判断ができることを目指す。 技能・表現の観点: 積極的に思考し、発表し、議論する態度と、そのための学習、思考、準備を確実に実行できることが望ましい。

授業の計画(全体) ウィーナーのサイバネティクス、サイモンの組織論、アシュビーの研究などを概観し、組織へのシステムズアプローチの試みとして 2004 年以降に提案されたモデル(Organizational cybernetics theory 等)の発展方向を探る。

成績評価方法(総合) 授業時間内の活発さは、授業時間外の各自が自主的に行う学習が反映される。議論への参加、貢献度に重点を置き、総合的に評価する。

教科書・参考書 参考書: ・AN INTRODUCTION TO CYBERNETICS、W.ROSS ASHBY、JOHN WILEY & SONS、1956 ・サイバネティクス第2版、ノーバート=ウィーナー、岩波書店、1962 ・システムの科学第3版、ハーバート・A・サイモン、パーソナルメディア、1999 ・Applied General Systems Research on Organizations、S.Takahashi 他、Springer、2004

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

開設科目	経営数理計画研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 制約条件と目的関数とで記述される数理計画問題のうち、特に線形計画問題について学習する。線形計画問題の解法そのものは比較的理解しやすいものなので、この講義では問題を定式化するまでの過程に重点を置く。/ 検索キーワード 数理計画法 (mathematical programming) 線形計画法 (linear programming) シナリオ法、分割解法、確率ネットワーク

授業の一般目標 アセット・アロケーションや為替相場での取引計画の解法のひとつに、問題をネットワーク図で表現したのち、数理計画問題として定式化する手法がある。1987年に Mulvey らによって提案された確率ネットワークを用いると、問題を線形計画問題に定式化して解くことができる。本講義では、資産配分問題を例として、将来の資産運用環境を表現した複数のシナリオを確率ネットワークで表現し、さらに、線形計画問題として定式化する方法について研究する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：線形計画法に関する知識、シナリオ法の理解、分割解法の理解 英文で書かれたこの分野の論文を読みこなせること 思考・判断の観点：資産運用での資産の増減、取引による資産の移動、キャッシュフローの整合性などをネットワーク図にどのように反映させられるか、ロジックをグラフィカルに表現し、さらに定式化する柔軟な発想力を求める。

授業の計画 (全体) 数理計画法の概略、とくに線形計画法について理解したのち、資産配分問題に適用される例としてシナリオ法と確率ネットワークを用いたモデルを研究する。英文文献を読んで、英文によるモデルの説明に慣れる。また、実際に小規模なシナリオを作成して問題を解く経験をつむ。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 数理計画問題について
- 第 2 回 項目 線形計画問題について
- 第 3 回 項目 英文文献研究 (STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING 等)
- 第 4 回 項目 英文文献研究
- 第 5 回 項目 英文文献研究
- 第 6 回 項目 英文文献研究
- 第 7 回 項目 英文文献研究
- 第 8 回 項目 資産配分問題と数理計画法
- 第 9 回 項目 シナリオについて
- 第 10 回 項目 シナリオについて
- 第 11 回 項目 確率ネットワークについて
- 第 12 回 項目 定式化について
- 第 13 回 項目 定式化について
- 第 14 回 項目 解法について
- 第 15 回 項目 解法について

成績評価方法 (総合) 内容の量に比して授業回数が少ないので、授業時間外にも学習時間を確保すること。授業時に、準備状況や理解度が表れるので、それらを総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書: STOCHASTIC NETWORK OPTIMIZATION MODELS FOR INVESTMENT PLANNING, (John M. MULVEY and Hercules VLADIMIROU, 1989) 他、必要な文献は授業時間内に入手方法を含めて指示します。

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業中にお知らせします。

開設科目	情報処理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 人間の様々な活動を支援する情報処理システムに関する知識や技能の習得をとおして、情報処理システムについて考察する。

授業の一般目標 情報処理システムに関する知識や技能を習得する。

成績評価方法 (総合) 出席と試験。

開設科目	現代日本の労使関係研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本の労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。ちなみに、昨年前期は、高橋伸夫(2004)『虚妄の成果主義』日経 BP .を中心に、他に日本的雇用慣行の基本文献を数本やり、さらに各自の発表を自由課題で行なった。 / 検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

授業の一般目標 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解すること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)か(2)のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジюмеを作成して報告してもらおう。なお、下記の参考書(2)はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。それが終わったら、テキスト(3)の1990年以降の「第1概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第1概説」を通読して知識を養ってもらおう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レジюме発表と学期末レポート。レポートが50%、発表が40%、出席が10%。成績評価方法(観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。定期試験(中間・期末試験) 基本的に発表形式(レポート、レジюме、プレゼン)を採る。小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式(レポート、レジюме、プレゼン)を採る。10点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式(レポート、レジюме、プレゼン)を採る。50点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。10点 受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式(レポート、レジюме、プレゼン)を採る。20点 出席 毎回、出席を確認する。10点 合計 100点

教科書・参考書 教科書：労働運動白書、労働省、大蔵省印刷局；日本の労働組合100年、法政大学大原社会問題研究所【編】、旬報社、1999年；労働組合を創る、労働問題実践シリーズ編集委員会編、大月書店、1990年；・テキスト候補(1)神代和欣・連合総合生活開発研究所編(1995)『戦後50年産業・雇用・労働史』日本労働研究機構。(2)兵藤ツトム(1997)『労働の戦後史』東京大学出版会。(3)(厚生)労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(4)法政大学大原社会問題研究所編(1999)『日本の労働組合100年』旬報社。(5)労働問題実践シリーズ編集委員会編『労働組合を創る』大月書店。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん！

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	濱島清史				

授業の概要 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国 日本 途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。昨年後期は、日本・中国・カナダの労使関係に関する基本文献を数本輪読してから、今野浩一郎(1998)『勝ち抜く賃金改革』日本経済新聞社. を輪読し、さらに各自の発表を自由課題で行なった。/ 検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

授業の一般目標 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

授業の計画(全体) ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジメを作成して報告してもらおう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

成績評価方法(総合) 成績評価方法(総合) レジメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。成績評価方法(観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。定期試験(中間・期末試験) 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。10点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。50点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。10点 受講生の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式(レポート、レジメ、プレゼン)を採る。20点 出席 毎回、出席を確認する。10点 合計 100点

教科書・参考書 教科書：先進諸国の労使関係：国際比較：21世紀に向けての課題と展望，”桑原靖夫，グレッグ・バンバー，ラッセル・ランズベリー編”，日本労働研究機構，1990年；・テキスト候補(1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係 国際比較：21世紀に向けての課題と展望』日本労働研究機構。(2)「特集 開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌1999年8月号、No.469。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッタカー他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較 新しい政治経済モデルの探索』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、 国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。/ 参考書：適宜指示する。

メッセージ 共に学ばん！

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代マーケティングの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 マーケティングとは、企業の対市場活動であり、市場競争の活動である。マーケティングの基本は、企業が、消費者のニーズを把握して、それに適合する商品・サービスを提供することである。具体的に言うと、ヒット商品は、どのようにしたらうまれるのか。どのようにしたら人の心を打つ広告を製作できるのか、価格をどのように設定するのか、販売ルートをどのように構築していくのかということが、マーケティングのメインとなるフォーカスである。最近では、マーケティングは、メーカーの分野に限定されるのではなくて、社会の様々な分野で、そのスキルの応用は有益であるということが言われた。そのため、地域産業、ひいては地方、地域間競争に打ち勝つために、どのようにマーケティング手法が応用可能であるかについても、考察していく予定である。

授業の一般目標 マーケティングの基本的文献を講読し、マーケティングの研究方法与諸問題に対する知識を深める。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 需要創造
- 第 3 回 項目 製品政策（ 1 ）
- 第 4 回 項目 製品政策（ 2 ）
- 第 5 回 項目 価格政策
- 第 6 回 項目 販売促進政策
- 第 7 回 項目 流通チャネル政策
- 第 8 回 項目 消費者行動（ 1 ）
- 第 9 回 項目 消費者行動（ 2 ）
- 第 10 回 項目 市場調査（ 1 ）
- 第 11 回 項目 市場調査（ 2 ）
- 第 12 回 項目 市場調査（ 3 ）
- 第 13 回 項目 双方向マーケティング
- 第 14 回 項目 地域のマーケティング
- 第 15 回 項目 地方自治体のマーケティング

教科書・参考書 教科書：消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年

開設科目	戦略的マーケティングの展開研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 1980 年代以降の市場の全体的成長の伸び悩みと企業間競争の激化に対応して、マーケティングの戦略のあり方を製品レベルで考えるのではなく、企業全体レベルで考えるようになってきた。これが、戦略的マーケティングという考え方である。この講義では、戦略的マーケティング台頭の背景、基本的性格、対象領域、戦略の内容を考えた上で、他の企業との関係において、マーケティングの諸要素をどのように戦略的に組み合わせればよいかについて、考察していきたい。

授業の一般目標 マーケティング戦略論に関する基本的文献を輪読し、報告と討論を通じて基本的知識、研究方法の修得することを目指す。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 マーケティングの考え方
- 第 3 回 項目 消費者行動とマーケティング戦略
- 第 4 回 項目 競争戦略
- 第 5 回 項目 新製品開発戦略
- 第 6 回 項目 マーケティング戦略のダイナミクス
- 第 7 回 項目 製品政策
- 第 8 回 項目 価格政策
- 第 9 回 項目 プロモーション政策
- 第 10 回 項目 流通チャネル政策
- 第 11 回 項目 サービス・マーケティング
- 第 12 回 項目 ビジネス・戦略の実践
- 第 13 回 項目 SWOT 分析
- 第 14 回 項目 PPM 分析
- 第 15 回 項目 戦略ドメイン

教科書・参考書 教科書：マーケティング戦略, 慶應大学ビジネス・スクール編, 有斐閣, 2004 年 / 参考書：現代製品戦略論：現代マーケティングにおける製品戦略の形成と展開, 米谷雅之著, 千倉書房, 2001 年

開設科目	流通システムの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

授業の概要 流通は生産と消費のへだたりを埋める役割を果たす。流通機関は流通機能を分担して遂行し、流通機能の分担関係は時代とともに変化していく。本講義は、このような流通システムを分析するための基礎理論を学ぶ。 / 検索キーワード 流通, 商業, マーケティング

授業の一般目標 1. 流通理論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 流通理論を体系的に理解する。 思考・判断の観点: 流通現象を理論的に説明できる。

授業の計画(全体) 教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて流通論を理解する。

成績評価方法(総合) 報告内容・ディスカッションでの貢献(20%), 中間テスト(30%), 期末テスト(30%)で評価する。

教科書・参考書 教科書: 教科書は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。
 ・大阪市立大学商学部編『流通』, 有斐閣。 ・高嶋克義『現代商業学』, 有斐閣アルマ。 ・矢作敏行『現代流通』, 有斐閣アルマ。 ・原田英生, 向山雅夫, 渡辺達朗『流通と商業』, 有斐閣アルマ。 ・田村正紀『流通原理』, 千倉書房。

開設科目	人的資源管理の現代的課題研究	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	内田 恭彦				

授業の概要 この講義は人的資源管理論の中でも特に戦略的人的資源管理論に絞り、その類型、背景理論をまず概観する。その上で日本的経営における人的資源管理上の今日の問題点を明らかにし、人材ポートフォリオ・マネジメント論を検討する。 / 検索キーワード 戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ論、資源ベースの企業観 (RBV)、ダイナミック・ケイパビリティ

授業の一般目標 1. 戦略的資源管理論の諸理論の理解 2. 理論と現実を基に自ら考えていく力の涵養
*特に2番目を重視します。知識を持つだけでなく、知識を活用し一層知見を深めていけるようになることを第一の目標と考えています。

授業の計画(全体) 本講義は大きく3つから構成されている。第一にアメリカのSHRM論を概観し、戦略と人的資源管理の関係を検討する(戦略的資源管理の理論)。次いでこれらの理論の基礎となる理論を検討する(戦略的資源管理論の基礎理論)。その上で人材ポートフォリオ論の検討を行う(人材ポートフォリオ論の構築に向けて)。この際日本企業に適した人材ポートフォリオ論を検討し、構築していくことを意識的に行っていく。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 インストラクション 内容 本講義の概要などについての説明
- 第2回 項目 戦略的人的資源管理の理論1 内容 戦略的人的資源管理論の全体像と類型
- 第3回 項目 戦略的人的資源管理の理論2 内容 ユニバーサリスティック・アプローチについて
- 第4回 項目 戦略的人的資源管理の理論3 内容 コンティンジェンシー・アプローチについて
- 第5回 項目 戦略的人的資源管理の理論4 内容 コンフィギュレーション・アプローチについて
- 第6回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論1 内容 取引費用理論
- 第7回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論2 内容 人的資本論
- 第8回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論3 内容 RBV
- 第9回 項目 戦略的人的資源管理の基礎理論3 内容 企業文化論
- 第10回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて1 内容 人的資源アーキテクチャー論について
- 第11回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて2 内容 雇用ポートフォリオ論について
- 第12回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて3 内容 日本企業の競争優位の構築法 - RBVからの検討
- 第13回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて4 内容 日本企業の競争優位の構築法 - ダイナミック・ケイパビリティ論からの検討
- 第14回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて5 内容 中核人材と周辺人材
- 第15回 項目 人材ポートフォリオ論の構築に向けて6 内容 日本型経営における人材ポートフォリオのあり方

成績評価方法(総合) 知識・理解、思考・判断、態度・価値観を総合的に判断し評価する。知識・理解においてはレポート発表を、思考・判断においては授業内での発言内容を、態度・価値観では出席状況や授業への参加態度を主に考慮する。

教科書・参考書 教科書: 授業の中で英文論文を中心に指定します。 / 参考書: 戦略的資源管理論の実相 - アメリカSHRM論研究ノート, 岩出博, 泉文堂

メッセージ この講義は議論を重視します。皆さんの活発な意見のやり取りから新たな知見を生み出したと考えています。

開設科目	現代企業のファイナンス戦略の特質研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				
<p>授業の概要 ファイナンスの基礎と応用の取得</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 専門知識の習得</p> <p>成績評価方法 (総合) レポート、講義内の報告</p> <p>教科書・参考書 教科書： 現代ファイナンス論, ボディ・マートン, ピアソン, 2002 年</p>					

開設科目	国際経営論の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 多国籍企業や国際経営に関する諸理論を学習する。

授業の一般目標 多国籍企業論および国際経営論の重要理論の習得

授業の計画(全体) 1. 多国籍企業論 2. 国際経営論

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (1)
- 第 2 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル 理論 (2)
- 第 3 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (1)
- 第 4 回 項目 ハイマーの対外 事業活動論 (2)
- 第 5 回 項目 フェアフェザ ーの国際経営論 (1)
- 第 6 回 項目 フェアフェザ ーの国際経営論 (1)
- 第 7 回 項目 ダニングの折衷 理論 (1)
- 第 8 回 項目 ダニングの折衷 理論 (2)
- 第 9 回 項目 多国籍企業の組織論 (1): スト ッ プフォード&ウ エルズ
- 第 10 回 項目 多国籍企業の組織論 (2): パート レット&ゴシャ ール
- 第 11 回 項目 多国籍企業の組織論 (3): ゴシャ ール
- 第 12 回 項目 グローバル戦略 論: マイケルポ ーター
- 第 13 回 項目 異文化経営論 (1): ホフステ ッ ド
- 第 14 回 項目 異文化経営論 (2): ホフステ ッ ド
- 第 15 回 項目 グローバル企業 の戦略提携

成績評価方法(総合) 出席および授業中の発表で評価します

教科書・参考書 参考書: 資料を適時配布します

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経営戦略の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 この講義は、企業の戦略について、基本的な諸原則と原理を説明し、個々の戦略事例の問題を幅広く取上げる。このことから、企業戦略の包括的理解と応用能力を教授する。/ 検索キーワード トップ組織と意思決定、戦略と状況、原則と原理、コストと便益、組織ネットワーク

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： トップマネジャーの思考を理解し、応用する。 思考・判断の観点： 個別問題でも、全体思考で考え、判断できるようにする。 態度の観点： 自分の意見を、積極的に述べる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業戦略について
- 第 2 回 項目 戦略と意思決定
- 第 3 回 項目 拡張戦略
- 第 4 回 項目 規模の経済性原則
- 第 5 回 項目 個別事例の紹介：製造業のケース
- 第 6 回 項目 個別事例の紹介：流通業のケース
- 第 7 回 項目 個別事例の紹介：保険業のケース
- 第 8 回 項目 範囲の経済性原則
- 第 9 回 項目 個別事例の紹介：多角化企業
- 第 10 回 項目 個別事例の紹介：流通業
- 第 11 回 項目 統合の経済性原則
- 第 12 回 項目 個別事例の紹介：合併
- 第 13 回 項目 個別事例の紹介：買収
- 第 14 回 項目 組織ネットワーク戦略
- 第 15 回 項目 価値連鎖の統合戦略

メッセージ 経営学の知識が、最初から必要とする。従って、経営学の基本文献を精読しておくことが、望ましい。

開設科目	経営史の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。 / 検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の専門知識の修得 思考・判断の観点：学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。 関心・意欲の観点：授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。 態度の観点：授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。 技能・表現の観点：報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。 その他の観点：授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

成績評価方法（総合） 受講態度を総合的に判断して評価する。

メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	商品の経済環境研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品を調査、分析するための基礎となるような、修士のレベルで理解しておくべき理論的なフレームワークを学ぶ。

授業の一般目標 商品を調査、分析するための基礎となるような、理論的フレームワークを理解する。

授業の計画(全体) (1) 基礎的文献を読む (2) ジャーナル論文を読む

成績評価方法(総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書：基礎的文献に関しては、初回授業にて、受講生と相談して決める。

メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

開設科目	企業経営とリスク分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用について学習する。

授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： リスクマネジメント手法の理解 思考・判断の観点： 不確実な将来を見越して複線的な物の見方を涵養する。 態度の観点： 討論に積極的に参加する。

授業の計画（全体） 教科書の輪読

成績評価方法（総合） レポートと日常点

教科書・参考書 教科書： 保険とリスクマネジメント，米山高生，東洋経済新報社，2005 年

開設科目	国際資本移動と為替相場研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	瀧口 治				

開設科目	国際マクロ経済分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	瀧口 治				

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

授業の計画(全体) 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

成績評価方法(総合) 小テスト/授業内レポート = 50% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 50% 出席 = 欠格条件

教科書・参考書 教科書：中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

メッセージ 無断欠席しないこと。

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。

授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

授業の計画(全体) World Investment Report 2005、を読む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論 (以下同じ)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。

授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

授業の計画（全体） 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 レポートと討論（以下同じ）

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
 / 検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点：テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。 技能・表現の観点：客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

授業の計画（全体） 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告を中心に討論する。

成績評価方法（総合） 1．報告 40％、レポート 40％、討論 20％。4回以上欠席した場合、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：テキストは適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
 電話：083-933-5559

開設科目	コミュニケーション英語研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 本授業では英語で日本文化の特徴について議論します。教員は文化心理学・異文化コミュニケーションでの研究をしょうかいしてから、学生にその話題について話し合ってもらいます。 This course will focus upon the discussion of Japanese culture in English. The teacher will present research from the fields of Cultural Psychology and Intercultural Communication. Students will then be encouraged to talk about the differences raised and their own perceptions of Japanese culture. / 検索キーワード 文化, コミュニケーション, Culture, Communication

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学・異文化コミュニケーションにおける日本文化についての研究を知ること To learn about some of the research in the fields of Intercultural Communication and Cultural Psychology 態度の観点：英語で話す恐怖を乗り越え、下手は英語でも自分の意見を言い表す積極的な姿勢 To overcome fears regarding speaking in English, and develop an enthusiasm towards expressing ones own opinions 技能・表現の観点：日本文化についての意見を英語で表現する技能

授業の計画（全体） 下記の話題についての研究を紹介し、議論していただきます。 集団主義と個人主義 (Collectivism and Individualism) 自己高揚(自分を過大評価する態度) Self Enhancement (The tendency to overestimate ones merits) 時間的展望(時間をどのように認識するか) Time Perspective (How different cultures view time) 空間観(空間をどのように認識するか) Proxymemics and other attitudes governing cultural perceptions of space ジェンダー(男性の役割・女性の役割をどのように考えるか) Gender (How cultures view the roles of males and females)

成績評価方法（総合） レポート 50% 参加（平常点）50% 出席（欠格条件）

メッセージ 英語のレベルは様々でそう問われませんが、間違いを恐れずに英語で話してみることが肝心です。恥ずかしがらないで、積極的に参加してください。 Since there are sure to be a variety of levels of English ability, your fluency at the start of the course will not be all that much of an issue. It is however important that you attempt to speak, even in broken English and overcome your fear and embarrassment towards doing so.

連絡先・オフィスアワー tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階玄関上 山口大学 HP の「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP <http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。